

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホジツフクハラガクエン 学校法人 福原学園								
フリガナ大学の名称	キョウシユウキョウリツダクイガク 九州共立大学								
大学本部の位置	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号								
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神「自律処行」に基づいて、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的道徳的及び応用的能力を展開し、もって人格の完成をめざし健全な国民を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	学是「自律処行」の精神に基づき、こどもスポーツ教育学科は、児童・生徒の教育に関する専門知識を身に付け、スポーツの文化に関する幅広い知識を基盤とした確かな実践力と高い適応性を有する教育者・支援者を養成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	スポーツ学部 こどもスポーツ教育学科	年	人	年次人	人	学士(こどもスポーツ教育学)	令和6年4月1年次	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号	
	計	4	50	—	200				
		4	50	—	200				
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	九州共立大学 経済学部 経済・経営学科〔定員増〕(10) (令和6年4月) 地域創造学科〔定員減〕(△30) (令和6年4月) スポーツ学部 スポーツ学科〔定員減〕(△30) (令和6年4月) こどもスポーツ教育学科 (50) (令和5年3月認可申請) 九州女子大学大学院 人間科学研究科人間科学専攻 (5) (令和5年3月認可申請)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	こどもスポーツ教育学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位			
		53 科目	122 科目	30 科目	205 科目				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	スポーツ学部 こどもスポーツ教育学科	7人 (7)	2人 (1)	6人 (6)	—人 (—)	15人 (14)	—人 (—)	81人 (46)
		計	7 (7)	2 (1)	6 (6)	— (—)	15 (14)	— (—)	81 (46)
	既設分	経済学部 経済・経営学科	15 (15)	5 (5)	6 (6)	— (—)	26 (26)	— (—)	120 (91)
		地域創造学科	7 (7)	5 (5)	3 (3)	— (—)	15 (15)	— (—)	64 (43)
		スポーツ学部 スポーツ学科	12 (12)	3 (3)	10 (10)	— (—)	25 (25)	4 (4)	116 (88)
		共通教育センター	1 (1)	— (—)	1 (1)	— (—)	2 (2)	— (—)	— (—)
		計	35 (35)	13 (13)	20 (20)	— (—)	68 (68)	4 (4)	— (—)
	合計		42 (42)	15 (14)	26 (26)	— (—)	83 (82)	4 (4)	— (—)

教員以外の職員 の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		31 人 (31)	22 人 (22)	53 人 (53)				
	技 術 職 員		2 (2)	— (—)	2 (2)				
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	1 (1)	2 (2)				
	そ の 他 の 職 員		— (—)	— (—)	— (—)				
	計		34 (34)	23 (23)	57 (57)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	40,084.53 m ²	— m ²	— m ²	40,084.53 m ²				
	運 動 場 用 地	136,313.89 m ²	— m ²	— m ²	136,313.89 m ²				
	小 計	176,398.42 m ²	— m ²	— m ²	176,398.42 m ²				
	そ の 他	377,591.82 m ²	— m ²	— m ²	377,591.82 m ²				
	合 計	553,990.24 m ²	— m ²	— m ²	553,990.24 m ²				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	九州女子大学 九州女子大学大学院 九州女子短期大学 標準設置面積 15,502.30 m ²			
		36,427.38 m ² (36,427.38 m ²)	835.49 m ² (835.49 m ²)	— m ² (— m ²)	37,262.87 m ² (37,262.87 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	60 室	24 室	8 室	6 室 (補助職員 0 人)	— 室 (補助職員 — 人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		こどもスポーツ教育学科		15 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での 特定不能なため、 大学全体の 数	
	こどもスポーツ教育学科	244,325 [52,331] (241,773 [52,198])	19 [19] (19 [19])	19 [19] (19 [19])	2,424 (2,424)	0 (0)	0 (0)		
	計	244,325 [52,331] (241,773 [52,198])	19 [19] (19 [19])	19 [19] (19 [19])	2,424 (2,424)	0 (0)	0 (0)		
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体	
		3,499.04 m ²		431	300,000				
体 育 館		面積		野球場1面、サブ野球場1面、人工芝サッカー場1面、人工芝ラグビー場1面、人工芝多目的コート1面、第3種公認陸上競技場1面、投てき場1面、テニスコート5面、トレーニング室、多目的室内練習場					大学全体
		15,971.02 m ²							
経 費 の 見 積 り 及 び 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	
	教員 1 人 当 り 研 究 費 等		300 千 円	300 千 円	300 千 円	300 千 円	—	—	
	共 同 研 究 費 等		—	—	—	—	—	—	
	図 書 購 入 費	4,319千円	3,631千円	238千円	0 千円	0 千円	—	—	
	設 備 購 入 費	25,371千円	29,001千円	11,121千円	0 千円	0 千円	—	—	
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		1,300 千 円	1,080 千 円	1,080 千 円	1,080 千 円	— 千 円	— 千 円		
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等						

既設大学等の状況	大学の名称	九州共立大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
		年	人	年次人	人		倍			
	経済学部 経済・経営学科	4	350	—	1,350	学士 (経済学)	1.09 1.17	平成21年度		福岡県北九州市八幡 西区自由ヶ丘1番8号
地域創造学科	4	80	—	340	学士 (経済学)	0.76	平成31年度			
スポーツ学部 スポーツ学科	4	250	—	1,000	学士 (スポーツ学)	1.11 1.11	平成19年度			
既設大学等の状況	大学の名称	九州共立大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
		年	人	年次人	人		倍			
	経済・経営学研究科 経済・経営学専攻	2	5	—	10	修士(経済学)	2.40	令和4年度		福岡県北九州市八幡 西区自由ヶ丘1番8号
スポーツ学研究科 スポーツ学専攻	2	5	—	10	修士 (スポーツ学)	1.30	平成30年度			
既設大学等の状況	大学の名称	九州女子大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
		年	人	年次人	人		倍			
	家政学部 人間生活学科	4	—	—	—	学士(家政学)	0.94	平成13年度		福岡県北九州市八幡 西区自由ヶ丘1番1号
	生活デザイン学科	4	60	—	60	学士(家政学)	0.60	令和5年度		
	栄養学科	4	90	—	360	学士(家政学)	0.95	平成13年度		
	人間科学部 人間発達学科 人間発達学専攻	4	—	—	—	学士(文学)	0.89	平成22年度		福岡県北九州市八幡 西区自由ヶ丘1番1号
	児童・幼児教育学科	4	100	—	100	学士(教育学)	0.85	令和5年度		
	人間発達学科 人間基礎学専攻	4	—	3年次 40	—	学士(文学)	—	平成22年度		
	心理・文化学科	4	90	—	90	学士(文学)	0.92	令和5年度		
大学の名称	九州女子短期大学									
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地	
	年	人	年次人	人		倍				
	子ども健康学科	2	150	—	300	短期大学士 (教育学)	0.72	平成23年度	福岡県北九州市八幡 西区自由ヶ丘1番1号	
附属施設の概要	体育館：スポーツ実技の授業および課外活動、福原学園鶴鳴記念館、福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号、昭和60年10月、7,281.07㎡ 体育館：スポーツ実技の授業および課外活動、第2体育館(ダンス室含む)、福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号、昭和38年10月(昭和58年3月増設)、2,281.19㎡ 体育館：スポーツ実技の授業および課外活動、耕技館(体操競技場等含む)、福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号、平成7年3月、4,212.98㎡ 体育館：スポーツ実技の授業および課外活動、福原学園屋内公認温水プール棟、福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号、平成24年3月、1,644.17㎡									

教 育 課 程 等 の 概 要															
(スポーツ学部こどもスポーツ教育学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合 共通科目	教養 教育科目	文化・芸術領域 ことばと日本文化	1・2前・後		2		○							兼4	
		スポーツの文化	1・2前・後		2		○							兼2	
		ことばと異文化	1・2前・後		2		○							兼3	
		情報文化論	1・2前・後		2		○							兼1	
		歴史・社会領域 歴史と国際情勢	1・2前・後		2		○							兼1	
		現代国家と法(日本国憲法)	1・2前・後		2		○							兼1	
		暮らしと経済	1・2前・後		2		○							兼2	
		人権・同和教育	1・2前・後		2		○							兼1	
		人間・環境領域 人間と哲学	1・2前・後		2		○							兼2	
		生命と地球	1・2前・後		2		○							兼2	
		心の科学	1・2前・後		2		○							兼2	
		共生社会を生きる	1・2前・後		2		○							兼1	
総合 共通科目	言語・異文化 理解科目	日本語 日本語表現法Ⅰ	1後		1		○							兼1	
		日本語表現法Ⅱ	2前		1		○							兼1	
		日本語表現法Ⅲ	2後		1		○							兼1	
		英語 英語Ⅰ	1前	1			○							兼1	
		英語Ⅱ	1後	1			○							兼1	
		英語コミュニケーションⅠ	2前		1		○							兼1	
		英語コミュニケーションⅡ	2後		1		○							兼1	
		実用英語	2前		1		○							兼1	
		中国語 中国語Ⅰ	1前		1		○		1						
		中国語Ⅱ	1後		1		○		1						
		中国語Ⅲ	2前		1		○		1						
		中国語Ⅳ	2後		1		○		1						
実用中国語	2前		1		○		1								
総合 共通科目	キャリア 教育科目	韓国語 韓国語Ⅰ	1前		1		○							兼1	
		韓国語Ⅱ	1後		1		○							兼1	
		韓国語Ⅲ	2前		1		○							兼1	
		韓国語Ⅳ	2後		1		○							兼1	
		実用韓国語	2前		1		○							兼1	
		イングリッシュワークショップ	1前・後		1		○							兼1	
		海外研修	1～4前集中		2				○					兼1	
		情報 教育科目	データサイエンス入門	1前	1			○							兼1
		情報処理演習Ⅰ	1後	1			○		1						
		情報処理演習Ⅱ	2前		1		○		1						
		情報処理演習Ⅲ	2後		1		○							兼1	
		総合 共通科目	キャリア 教育科目	キャリア デザイン 領域 キャリア基礎演習Ⅰ	1集中	1			○				3		
キャリア基礎演習Ⅱ	2集中			1			○		2		1				
キャリア基礎演習Ⅲ	3集中			1			○		2		1				
キャリアデザインⅠ	3前			1			○		1		1				
キャリアデザインⅡ	3後			1			○		1		1				
インターンシップ(企業研修)	2集中			2				○						兼1	
キャリア 開発 領域 スキルアップ講座A	3後				1			○						兼1	
スキルアップ講座B	2(3)前				1			○						兼1	
スキルアップ講座C	2(3)後				1			○						兼1	
スキルアップ講座G	3(4)前				1			○						兼1	
スキルアップ講座H	3(4)後				1			○						兼1	
スキルアップ講座R	3(4)前				1			○						兼1	
スキルアップ講座S	3(4)後		1			○						兼1			
小計(49科目)			9	54	0	-			4	0	4	0	0	兼30	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(スポーツ学部こどもスポーツ教育学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
留学生特別科目	初級日本語 I A	1前・(後)		2				○		1						
	初級日本語 I B	1前・(後)		2				○		1						
	初級日本語 I C	1前・(後)		2				○							兼1	
	初級日本語 I D	1前・(後)		2				○							兼1	
	初級日本語 I E	1前・(後)		2				○							兼1	
	初級日本語 II A	1前・(後)		2				○							兼1	
	初級日本語 II B	1前・(後)		2				○		1						
	初級日本語 II C	1前・(後)		2				○							兼1	
	初級日本語 II D	1前・(後)		2				○							兼1	
	初級日本語 II E	1前・(後)		2				○							兼1	
	中級日本語 I	1前		1				○							兼2	
	中級日本語 II	1後		1				○							兼2	
	上級日本語 I	2前		1				○							兼2	
	上級日本語 II	2後		1				○							兼2	
	スキルアップ講座N	3前・(4)前		1				○							兼1	
	スキルアップ講座O	3後・(4)後		1				○							兼1	
	スキルアップ講座P	3前・(4)前		1				○							兼1	
	スキルアップ講座Q	3後・(4)後		1				○							兼1	
小計 (18科目)			0	28	0			—		1	0	0	0	0	兼8	
学部共通科目	解剖生理学	1前		2			○								兼1	
	スポーツ運動学(運動方法学を含む。)	1前		2			○					1				
	スポーツ指導論	1前	2				○			1					兼1	
	スポーツ生理学	1後		2			○								兼1	
	スポーツバイオメカニクス	1後		2			○								兼1	
	スポーツ社会学	1後		2			○					1			兼1	
	スポーツ心理学	1後		2			○									
	スポーツ医学	2前		2			○								兼1	
	スポーツ栄養学	2後		2			○								兼1	
	体カトレーニング論	3前		2			○								兼1	
レクリエーション論	4前		2			○						1				
専門教育科目	国語科教育概論 (書写を含む。)	1後		2			○			1						
	社会科教育概論	1後		2			○								兼1	
	算数科教育概論	1後		2			○			1						
	理科教育概論	2前		2			○			1						
	児童英語概論	2後		2			○								兼1	
	音楽科教育概論	1後		2				○				1				
	体育科教育概論	1前	2					○		1		1				
	国語科指導法	2前		2				○		1						
	社会科指導法	2前		2				○							兼1	
	算数科指導法	2前		2				○		1						
	理科指導法	2後		2				○							兼1	
	生活科指導法	3前		2				○		1						
	音楽科指導法	3前		2				○							兼1	
	図画工作指導法	2前		2				○							兼1	
	家庭科指導法	3前		2				○							兼1	
	体育科指導法	3前		2				○				1				
	児童英語指導法	3前		2				○							兼1	
	水泳指導法	3前		2					○						兼1	
ダンス指導法	3前		2					○						兼1		

教育課程等の概要															
(スポーツ学部子どもスポーツ教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
児童教育科目	キャリアアドバンス教員養成（初等）Ⅰ	2後		1				○		3	1				オムニバス・共同（一部）
	キャリアアドバンス教員養成（初等）Ⅱ	3前		1				○		3	1				オムニバス・共同（一部）
	キャリアアドバンス教員養成（初等）Ⅲ	3後		1				○		1		2			オムニバス・共同（一部）
	キャリアアドバンス教員養成（初等）Ⅳ	4通		1				○		1		2			オムニバス・共同（一部）
スポーツ教育科目	スポーツ教育概論	1後	2					○		1		1			共同
	学校体育のマネジメント	2後		2				○		1					共同
	学校体育指導演習	2後		2				○		1		1			兼1
	器械運動指導法(体づくり運動を含む。)	3前		1					○						兼1
	陸上競技指導法	3後		1					○			1			兼1
	球技指導法A	3後		1					○	1					兼2
	球技指導法B	3後		1					○						兼3
	武道指導法	3後		1					○						兼1
	学校保健Ⅰ(学校安全を含む。)	2後		2				○							兼1
	学校保健Ⅱ(小児保健を含む。)	3前		2				○							兼1
	精神保健	2後		2				○							兼1
	学校保健指導演習	3後		2					○						兼1
	ジュニアスポーツ論	2前		2				○				1			兼1
	ジュニアスポーツ指導演習	2後		2					○			1			兼1
衛生学及び公衆衛生学	1前		2				○							兼1	
救急処置	2前後		2				○							兼1	
ゼミナール	ゼミナールⅠ	2前	2					○		3					
	ゼミナールⅡ	2後	2					○		3					
	ゼミナールⅢ	3前	2					○			1	2			
	ゼミナールⅣ	3後	2					○			1	2			
	キャリア発展ゼミナール	4通	4					○		5	1	6			
スポーツ実技科目	体操(体づくり運動を含む。)	1前後		1				○							兼1
	器械運動	2前後		1				○							兼1
	陸上競技A	1前後	1					○				1			兼1
	陸上競技B	2前後		1				○							兼2
	水泳	2前後	1					○			1				
	バスケットボール	1前後		1				○	1		1				共同
	バレーボール	2前後		1				○							兼1
	サッカー	1前後		1				○							兼1
	ハンドボール	2前		1				○							兼1
	ラグビー	2前		1				○							兼1
	ソフトボール・野球	3前後		1				○							兼1
	テニス	3前後		1				○							兼1
	バドミントン	2前後		1				○							兼1
	ダンス	2前後		1				○							兼1
	剣道	2前後		1				○							兼1
	柔道	2前後		1				○							兼1
	レクリエーション実技	3後		1				○				1			
キャンプ	1～4集中		1				○							兼1	
小計（73科目）			28	93	0			—		6	2	6	0	0	兼32

教育課程等の概要														
(スポーツ学部こどもスポーツ教育学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
自由選択科目	教職論	1前後		2		○								兼1
	教育原論	1後		2		○								兼1
	教育心理学	2前		2		○			1					
	特別支援教育概論	2前		1		○			1					
	教育制度論	2前		2		○								兼1
	教育課程論	2後		2		○								兼1
	道徳教育指導法	3後		2		○								兼1
	教育方法論（情報通信技術の活用を含む。）	3後		2		○								兼2
	特別活動・総合的な学習の時間指導法	3前		2		○								兼1
	生徒・進路指導論	3前		2		○								兼1
	教育相談	2後		2		○			1					
	学校体験活動	3前後		2			○							兼1
	教育実習（小）	3後集中		4				○		1				兼1
	教育実習事前事後指導（小）	3通		1		○				1				兼1
	教職実践演習（小・中・高）	4後		2			○			1				兼1
小計(15科目)			0	30	0		—		0	1	1	0	0	兼7
自由科目	教職課程関連科目													
	保健体育科教育法Ⅰ	2前			2	○			1					
	保健体育科教育法Ⅱ	2後			2	○			1					
	保健体育科教育法Ⅲ	3前			2	○			1					
	保健体育科教育法Ⅳ	3後			2	○			1					
	教育実習Ⅰ（中・高）	4集中			2			○			1			兼1
	教育実習Ⅱ（中・高）	4集中			2			○			1			兼1
	教育実習事前事後指導（中・高）	4通			1	○					1			兼1
	K-CIP関連科目													
	公務員試験概論	1前(後)			1		○							兼1
	数的処理Ⅰ	1後			1		○							兼1
	社会科学Ⅰ	1後			1		○							兼1
	教職一般教養Ⅰ	1前			1		○							兼1
	教職一般教養Ⅱ	1後			1		○							兼1
	文章理解	2後			1		○							兼1
	数的処理Ⅱ	2前			1		○							兼1
	数的処理Ⅲ	2後			1		○							兼1
	社会科学Ⅱ	2前			1		○							兼1
	自然科学	2前			1		○							兼1
	人文科学	2後			1		○							兼1
	憲法演習	2前			1		○							兼1
	民法（総則、物権）演習	2前			1		○							兼1
	民法（債権、親族・相続）演習	2後			1		○							兼1
	行政法演習	2後			1		○							兼1
	ミクロ経済学演習	2前			1		○							兼1
	マクロ経済学演習	2後			1		○							兼1
	教職教養基礎Ⅰ	2前			1		○							兼1
	保健体育科Ⅰ	2後			1		○							兼1
	教職教養基礎Ⅱ	2後			1		○							兼1
	法律科目演習Ⅰ	3前			1		○							兼1
法律科目演習Ⅱ	3後			1		○							兼1	
経済科目演習Ⅰ	3前			1		○							兼1	
経済科目演習Ⅱ	3後			1		○							兼1	
行政科目演習Ⅰ	3前			1		○							兼1	
行政科目演習Ⅱ	3後			1		○							兼1	
会計学演習	3前			1		○							兼1	
公務員試験直前対策Ⅰ（教養）	3前			1		○							兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(スポーツ学部子どもスポーツ教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
自由科目	文章理解演習	3前			1		○							兼1	
	人文科学演習	3前			1		○							兼1	
	公務員試験直前対策Ⅱ（教養）	3後			1		○							兼1	
	社会科学演習	3後			1		○							兼1	
	自然科学演習	3後			1		○							兼1	
	公務員試験直前対策Ⅰ（SPI）	3前			1		○							兼1	
	公務員試験直前対策Ⅱ（SPI）	3後			1		○							兼1	
	専門科目記述式演習	3後			1		○							兼2 共同	
	教職教養応用Ⅰ	3前			1		○							兼1	
	保健体育科Ⅱ	3前			1		○							兼1	
	教職教養応用Ⅱ	3後			1		○							兼1	
	公務員試験直前対策Ⅲ（教養）	4前			1		○							兼1	
	公務員試験直前対策Ⅲ（SPI）	4前			1		○							兼1	
	公務員人物試験対策	4前(後)			1		○							兼1	
	教職総合演習	4前			2		○							兼1	
小計（50科目）			0	0	57	—			1	0	1	0	0	兼10	
合計（205科目）			—	37	205	57	—			7	2	6	0	0	兼81
学位又は称号		学士（子どもスポーツ教育学）		学位又は学科の分野			子どもスポーツ教育学								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
総合共通科目30単位以上、専門教育科目60単位以上、自由選択科目18単位以上の合計124単位以上を修得すること。なお、自由選択科目には、自学科で単位修得した科目のうち卒業に要する単位数を超える科目、および、自学部他学科もしくは他学部で単位修得した科目を含む。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要					
(スポーツ学部こどもスポーツ教育学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
総合 共通 科目	教養 教育 科目	文化・芸術領域	ことばと日本文化	本授業科目では、主に1920～1950年代の日本の詩を取り上げる。1920年代から1950年代にかけての時期には、関東大震災や太平洋戦争など、歴史の転換点となる数多くの出来事があった。このような激動の時代において、日本の詩人たちは、社会の大きな変化と向き合いながら、詩に関するさまざまな試みを行った。本授業科目では、特に詩の表現（どのように書かれているのか）に注目し、それが、どのような社会的あるいは文化的背景のもとに生み出され、またどのような文学表現上の効果を持つものであったのかを考えることを目的とする。	
		スポーツの文化	現代のスポーツは、オリンピックやサッカーを代表とするワールドカップのみならず市民マラソンや小中学校のスポーツ大会などにおいても政治・経済・教育などを含む社会生活のさまざまな側面と関連する大きな文化現象となっている。また、メディアや消費活動との結びつきを通して、その影響力は多面化し増大している。本授業科目では、スポーツがどのような意味において「文化」なのか、どのような歴史的・社会的条件のもとで発展してきたのかを理解し、スポーツの影響力がどのような形で社会に及んでいるのかを学習する。		
		ことばと異文化	中国の古典小説『三国志演義』は名言の宝庫と言ってもよい。「三顧の礼」をはじめ、世に知られた名句も多い。本授業科目では、『三国志演義』にまつわる名句を学習しながら、小説における虚実の組み合わせや英雄豪傑の人物像を理解する。具体的に、「桃園の誓い」や「三顧の礼」「赤壁の戦い」などの名場面を中心に、DVD映像を鑑賞しながら、パワーポイントと配布資料を通して勉強を進めていく。		
		情報文化論	ICT(情報通信技術)というキーワードが、さまざまな場面で用いられる現代であるが、情報は、情報通信技術が出現する以前から存在している。情報は知識を表現するのに使われ、コミュニケーション手段としての情報が存在していた。また、情報の特徴としては、情報を加工し、再利用することができる。情報について総合的に着目することで、情報とは何か、また、情報技術が進むことで情報に対する対応の仕方の変化について考え、情報の役割について考察し、情報の収集方法、発信方法、情報の統計的活用法についても説明する。		
	歴史・ 社会 領域	歴史と国際情勢	政治と国際問題を理解するために、国家とは何か、また、それはどのような政治的営みを行うか、国家以外にはどのような国際関係の主体があるかを明らかにする。また、国際政治に対する主要な理論(リアリズム、リベラリズム等)に触れ、それらの理論の出現に大きな影響を与えた第一次世界大戦等の歴史について学習する。現代の国際的な課題についても学習する。その結果、政治と国際問題に対する基礎的知識と能動的な思考能力を身に付けることを目指す。		
		現代国家と法(日本国憲法)	「憲法とは何か」「現代社会において憲法はどのような重要性を持つのか」「人権にはいかなるものがあるのか」「国家のあり方に関する基本原理やルールとは」といった基本的問題について解説していく。全体の構成としては、まず憲法とは何かについて概説した後、前半部では人権に関する項目、後半部では統治機構に関する項目を主題として講義を行う。		
		暮らしと経済	経済は、新聞やニュースで取り扱われる難しいものもあるが、日々の生活の中においても経済活動は行われている。そこで、本授業科目では、経済学の基本的な考え方を学んでいく。消費者と生産者のそれぞれの視点から経済の仕組みを学び、経済の基礎知識を身に付ける。		

総合共通科目	教養教育科目 人間・環境領域	人権・同和教育	現在、人権を尊重し、差別を許されないとする風潮は高まっている一方で、インターネット上などでは差別はむしろ深刻化しつつある。本授業科目では、基本的人権についての理解を深めながら、現代日本社会のなかのさまざまな人権問題と差別の現状を解説しながら、皆さん自身の問題として捉え直すことを要求する。法的規制だけでは解決し得ない人権問題の難しさを理解し、社会の表面からは見えにくい暴力や差別に晒されている人々の痛みや苦しみにいかに向き合うかを考えていく講義である。そうすることで、多様な価値観を備えた人権意識を鍛え、自由で開かれた論理的思考をもって問題を考える力を身に付けることを目指す。	
		人間と哲学	たとえば、「コンピュータに心はあるのか」と問われたら、あなたはどうか答えるだろうか？今や人工物が「考える(知能を持つ)」時代である。かつてホーキング博士は「人工知能が完全に発展すれば、人類の終わりをもたらすかもしれない」と語った。「考える」ことが人間に固有の能力だという私たちの当たり前は問い直さざるを得ない社会になっている。哲学は、普段当たり前だと思っていることを問いなおす学問である。本授業科目では、現代社会のさまざまな問題について、哲学者たちの考えを学びながら、一緒に問い直し考えていく。そして、自分と世界との当たり前の関係をあらためて問い直す力や、自分自身で深く考える力を身に付ける。	
		生命と地球	本授業科目であなたは壮大な地球の歴史を学ぶことができる。なぜ、ほ乳類は母親のお腹から産まれるようになったのか？なぜ人類は2足歩行を始めたのか？北米大陸の先住民と日本人の顔・姿が似ているのはなぜか？最新の研究によって明らかにされた46億年にわたる地球の歴史とそれに伴う生物の進化を学ぶ。70億人を超える人類は、たった35人の母親から始まったことはあまり知られていない。本授業科目では、美しいコンピュータグラフィックスを駆使した学術的番組（NHK地球大進化）を視聴しながら学ぶ。	
		心の科学	心理学は人間を対象に振る舞いについて一定の法則を見出すものである。目には見えないが心を客観的に研究する学問である。本授業科目では主に「知覚」「記憶」「対人関係」「動機付け」「思考」「青年期」「発達」「臨床」について授業を展開する。人間をより深く理解し自分の生活を見直し、大学生活を有意義に過ごすことを目指して授業を進めていく。教員としての経験を活かし、分かりやすく説明する。	
		共生社会を生きる	地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて繋がることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく社会を目指すものである。本授業科目では、協同教育とSDGsを根幹においた授業デザインで、共生社会の構成員として防災・減災、社会のマイノリティや地域が抱える社会課題をテーマに講義を行い、身近な課題に気づく力、その課題を「自分ごと」として捉え、柔軟な思考力をもって、仲間と一丸となって探求し、解決しようとする力を養う	
		言語・異文化理解科目	日本語	日本語表現法Ⅰ
		日本語表現法Ⅱ	本授業科目では、「日本語表現法Ⅰ」で身に付けた基本的な知識を発展させて、書くこと・話すことに関するより実践的な日本語運用能力の習得を目指す。資料の検索の仕方、レジュメの作り方、プレゼンテーションの行い方など、大学だけでなく社会に出てからも必要とされる技術について学ぶ。さらに、小論文やエントリーシートの書き方といった就職活動で求められるスキルを身に付け、敬語でコミュニケーションする力など日本語運用に関する社会人基礎力を養う。毎回の授業では、ワークシート等に取り組み、知識の定着を図る。	
		日本語表現法Ⅲ	社会人に必要な文章の「読解力」と「作成力」を身に付けることを目的とした授業を展開する。具体的には、文章や資料を正確に読み解く力、自分の意見を文章で分かりやすく説明する力、手紙文やビジネス文書を作成する力を養成するため演習等を行う。また、上記の「読解力」および「作成力」の基礎となる漢字や語彙、敬語に関する知識の定着・向上のためのトレーニングや、ロジカルシンキングや文章要約に関する演習も行う。なお、授業で扱う演習問題の難易度は、文章検定3級程度とする。	

総合共通科目	英語	英語 I	将来のキャリア形成に向けて、大学では就職試験やTOEICなどに対応し得る、より質の高い英語力が求められるが、英語力向上のためには基礎固めはいつの時点でも必要不可欠である。本授業科目では、英語において最も重要な動詞を中心として主要文法項目を復習し、それらの文法項目から成るシンプルな英文を読む、聞く、話す、書くという4技能のバランスのとれた向上を目指す。	
		英語 II	将来のキャリア形成に向けて、大学では就職試験やTOEICなどに対応し得る、より質の高い英語力が求められるが、英語力向上のためには基礎固めはいつの時点でも必要不可欠である。本授業科目では、「英語 I」に続いて、英語において最も重要な動詞を中心として主要文法項目を復習し、それらの文法項目から成るシンプルな英文を読む、聞く、話す、書くという4技能のバランスのとれた向上を目指す。	
		英語コミュニケーション I	「英語 I」「英語 II」で固めた基礎力を土台にして、日常的に使われる英文や英語表現を、語学学習における4技能を通してバランスよく学習しつつ、リスニングスキルとスピーキングスキルをさらに涵養することを目指す。アクティブ・ラーニングとして、発話練習、テキストで学んだ短会話の実践なども行う。英語圏諸国の基本的文化理解も授業時間中に適宜行う。	
		英語コミュニケーション II	「英語コミュニケーション I」に続いて、「英語 I」「英語 II」で固めた基礎力を土台にして、日常的に使われる英文や英語表現を、語学学習における4技能を通してバランスよく学習しつつ、リスニングスキルとスピーキングスキルをさらに涵養することを目指す。アクティブ・ラーニングとして、発話練習、テキストで学んだ短会話の実践なども行う。さらに、英語圏諸国の基本的文化理解も、授業時間中に適宜行う。	
		実用英語	「英語 I」「英語 II」の基礎力を土台にし、ビジネスや旅行等のさまざまな場面で「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を適切に使えるようになることを目指す。ビジネスや旅行等の身近な場面を想定し、咄嗟に使えるフレーズを反復して、発話練習等を行う。	
	中国語	中国語 I	本授業科目では、日常の表現を中心とした会話教材を使用し、発音と聞き取りの訓練を行うことによって、中国語発音の基礎と初歩的な文法を学習する。初めて習う外国語であるため、あまり難しく考えず、教科書を暗誦できる程度に時間をかけて練習する。	
		中国語 II	本授業科目では、「中国語 I」に続いて、日常の表現を中心とした会話教材を使用し、発音と聞き取りの訓練を行うことによって、中国語発音の基礎と初歩的な文法を学習する。初めて習う外国語であるため、あまり難しく考えず、教科書を暗誦できる程度に時間をかけて練習する。	
		中国語 III	本授業科目では、「中国語 I」「中国語 II」で習得した日常会話と基礎文型を復習しながら、より複雑なビジネス会話と文法を学習する。日本人のビジネスマンが中国に行き出会うさまざまな場面を想定し、「読む」「聴く」「話す」を繰り返し練習する。	
		中国語 IV	本授業科目では、「中国語 III」に続いて、習得した日常会話と基礎文型を復習しながら、より複雑なビジネス会話と文法を学習する。日本人のビジネスマンが中国に行き出会うさまざまな場面を想定し、「読む」「聴く」「話す」を繰り返し練習する。	
		実用中国語	「中国語 I」「中国語 II」の基礎力を土台にし、ビジネスや旅行等のさまざまな場面で「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を適切に使えるようになることを目指す。ビジネスや旅行等の身近な場面を想定し、咄嗟に使えるフレーズを反復して、発話練習等を行う。	
	韓国語	韓国語 I	初めて韓国語を学ぶ学習者が基礎から学べる入門講義である。まず、ハングル文字と発音を少しずつ覚えながら、同時に韓国との文化の違いを理解し、日常生活の挨拶や決まり文句、身近な単語に慣れ、親しみ、きれいな発音で簡単な自己表現と相手とのやり取りができることを目指す。初めての文字と発音なので十分な練習とゆっくりとしたスピードで習得させていく。	

総合共通科目	言語・異文化理解科目	韓国語	韓国語Ⅱ	「韓国語Ⅰ」で学習した内容を踏まえて、日韓の文化の違いを理解しながら、身近な事柄を表す単語や表現を用いて簡単なやりとりができ、より拡張した自己表現の文章書くことができるとともに、会話ができるようになることを目指す。	
			韓国語Ⅲ	本授業科目は、「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」で学習した内容を踏まえ、韓国の文化や事情に触れながら日常会話や、より実践的な会話を取り入れながら、使える韓国語の学習を目指す。	
			韓国語Ⅳ	本授業科目は、「韓国語Ⅲ」の続きとして、復習に重点を置き、韓国の文化や事情に触れながら実用的な会話に加え多様な文型を学習する。韓国の言葉を含め、韓国の事情や文化についても知識や理解を深める。	
			実用韓国語	「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」の基礎力を土台にし、ビジネスや旅行等のさまざまな場面で「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を適切に使えるようになることを目指す。ビジネスや旅行等の身近な場面を想定し、咄嗟に使えるフレーズを反復して、発話練習等を行う。	
			イングリッシュワークショップ	英語でのプレゼンテーション能力は、グローバル化する現代社会において必要なスキルの1つである。本授業科目では、英語でのコミュニケーションや面接、プレゼンテーション能力を磨くために、ネイティブスピーカーを中心とした集中講義の形式で、英語のみを使用してさまざまなトピックでのトークやディスカッションを行い、英語でアウトプットすることを積極的に促す授業を展開する。	
			海外研修	本授業科目は、国際交流・留学生支援室が募集する、短期海外研修プログラムに参加した学生に単位が与えられる科目である。英語や韓国語など、各協定校における語学研修プログラムを受講し、言語運用能力の向上を目指す。各協定校における語学研修プログラムでは、文法・聴解・読解・会話など、言語運用能力を向上させる4技能を、それぞれの協定校における手法で学習していく。また、海外での語学学習だけでなく、その土地の文化を体験し、国際人としての教養を深めることを目指す。	
情報教育科目			データサイエンス入門	インターネットやコンピュータを利用することは、現代社会においては必要不可欠であり、それらを用いて情報収集を行い、自分自身をアピールすることは社会人として身に付けておく必要がある。本授業科目ではパソコンを実際に操作しながら、ワード、エクセル、パワーポイント、情報検索、統計処理などを演習形式で体得し、さらに理解を深め、応用力を高めることを目標とする。	
			情報処理演習Ⅰ	インターネットやコンピュータを利活用することは現代社会においては必要不可欠であり、それらを用いて情報収集・整理を行い、考えを主張していくことが社会人として身に付けておく要素のひとつである。本授業科目はパソコンを実際に操作しながら初歩的なワードプロセッサや表計算・図形描画・電子メール・情報検索などを演習形式で繰り返し操作しながら体得していき、身近な情報機器を積極的に利用できるようにしていく。	
			情報処理演習Ⅱ	「情報処理演習Ⅰ」から発展する形で、文書作成・表計算・プレゼンテーション資料作成の技量を高めていく。その流れの中で数学的基礎知識（主として統計学）や芸術的センスのイロハ（レイアウトや色彩感覚など）も踏まえた内容を学んでいく。キー入力速度についても技能向上を求めていく。コンピュータ用語としての英語も含まれるため、しっかりと理解し体得していく。「情報処理演習Ⅰ」で行った内容は既に理解し実践できるという前提で物事が進んでいくため、過去の内容の「きちんとした振り返り」が必要となる。	
			情報処理演習Ⅲ	インターネットやコンピュータを利用することは、現代社会においては必要不可欠であり、それらを用いて情報収集を行い、自分自身をアピールすることは社会人として身に付けておく必要がある。本授業科目ではパソコンを実際に操作しながら、「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」を基礎にワード、エクセル、パワーポイント、情報検索、統計処理などを演習形式で体得し、さらに理解を深め、応用力を高めることを目標とする。	

総合共通科目	キャリアデザイン領域	キャリア基礎演習Ⅰ	学生が社会において自身の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するため、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力を身に付けることを目的とし、学修などの記録（学修ポートフォリオ）を習慣付け、自己理解・自己管理能力の育成を図る。また、科目の担当は担任制とし、年間を通して継続的な修学支援を行う。さらに、教員と学生および学生間のコミュニケーションを深め、コミュニケーション力を身に付けるとともに、学生の学修意欲を高める。	
		キャリア基礎演習Ⅱ	学生が社会において自身の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するため、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力を身に付けることを目的とする。学修ポートフォリオへの記録を継続するとともに、学修内容などの振り返りを通して、自己理解・自己管理能力および課題対応能力の育成を図る。また、科目の担当は担任制とし、年間を通して継続的な修学支援を行う。さらに、教員と学生および学生間のコミュニケーションを深め、コミュニケーション力を身に付けるとともに、学生の学修意欲を高める。	
		キャリア基礎演習Ⅲ	学生が社会において自身の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するため、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力を身に付けることを目的とする。学修ポートフォリオへの記録を継続するとともに、学修内容などの振り返りを通して、自分自身の課題などを把握したうえで、自身のキャリアを考える。また、科目の担当は担任制とし、年間を通して継続的な修学支援を行う。さらに、教員と学生および学生間のコミュニケーションを深め、コミュニケーション力を身に付けるとともに、学生の学修意欲を高める。	
		キャリアデザインⅠ	本授業科目では、大学から社会へ出るための準備を行う。 ①あなたの個性は適性検査でわかる。適性検査を通じて自己理解を行う。 ②社会に出るとはどういうことなのか、学業を行うこととの違いは何か、を理解する。 ③インターンシップや企業訪問に関するマナーや知識を身に付ける。 ④就職試験を想定し、あなたの基礎学力について考え、今後の対応策を組み立てていく。	
		キャリアデザインⅡ	本授業科目は、自らが希望する卒業後のより良い進路を獲得するためのものである。社会で求められる人物像や職業についての理解を深めながら、自己に適した職業を明確にするとともに、将来に向けての準備（就職活動）を行っていく。特に前期では、過去の経験を振り返りながら自分自身の強みや自分はどうの価値観を大事にしているかなど、自己分析を通じて考えていく。	
		インターンシップ（企業研修）	本授業科目は、夏期（冬期・春期）期間中の3日～7日程度、希望する企業・事業所等で就業体験（インターンシップ）を行う。期間は実習先によって異なる。単にインターンシップに参加することが目的ではなく、就業体験を通じて働くことを軸とした価値形成を育み、大学在籍中に自らの将来の人生設計（キャリア開発）を描くための気付きを得る。また、社会のさまざまな事業所等で就業体験を積むことによって新たな学習意欲を喚起し、自主的に考え行動できる力を養っていく。	
	キャリア発展領域	スキルアップ講座A	今の情報化社会では事務系・技術系、文系・理系などを問わずITの基礎知識を持ち合わせていなければならない。本授業科目では、独立行政法人・情報処理推進機構が実施する国家試験ITパスポート試験の出題テーマを題材とし、これから必須となるITに対する素養と知識・スキルの習得を目指す。	
		スキルアップ講座B	TOEICのスコアは就職活動時に利するのみならず、社会人としてのさまざまな場面でのキャリア形成にも非常に有効である。本授業科目では、TOEICの初級・中級者向けに、試験の特色を把握し、各パートの問題形式に慣れるため、重要な文法事項・語彙・語句で構成された比較的易しい問題を使って、実践的な受験対策を行う。また、学内で実施されるTOEIC Bridge Listening & Reading IP TestやTOEIC Listening & Reading IP Testの受験を目指す。	

総合共通科目	キャリア教育科目	キャリア発展領域	スキルアップ講座C	本授業科目では、「スキルアップ講座B」に続き、TOEICの初級・中級者が各パートに必要な英語力をさらに高めるため、頻出する語彙・語句や文法知識を身に付けるとともに、問題に対してより早く正確に解答するコツを身に付ける実践的な受験対策を行う。また、学内で実施されるTOEIC Bridge Listening & Reading IP TestやTOEIC Listening & Reading IP Testの受験を目指す。	
			スキルアップ講座G	さまざまな公務員の試験問題を演習することにより、必要な基礎知識、手法を修得する。なお、習得効果を大きくするために、事前の予習は不可欠である。本授業科目では、数的処理分野の中心である数的推理、判断推理に重点を置き、講義を進める。	
			スキルアップ講座H	公務員になるために必要な数的処理能力をより高めるとともに、論理的、かつ多角的な思考能力を養成する。	
			スキルアップ講座R	「スキルアップ講座B (TOEIC I)」「スキルアップ講座C (TOEIC II)」からさらに発展的なTOEIC受験対策の英語学習を実践的に行う。特に500点程度のスコアを取得するのに必要なリスニング力とリーディング力を身に付けることに重点を置き、さまざまなTOEIC形式の問題に取り組む。また、実際にTOEIC Listening & Reading IP Testの受験を目指す。	
留学生特別科目			スキルアップ講座S	「スキルアップ講座R (TOEIC III)」と同様に、発展的なTOEIC受験対策の英語学習を実践的に行う。特に550点程度のスコアを取得するのに必要なリスニング力とリーディング力を身に付けることに重点を置き、さまざまなTOEIC形式の問題に取り組む。また、実際にTOEIC Listening & Reading IP Testの受験を目指す。	
			初級日本語 I A	発音から学ぶ初級レベルの授業で、言語知識を勉強しながら会話力を少しずつ身に付ける。日常生活に必要な文法知識と基礎会話を習得する。メインの教科書のほかに、実際の会話や文化的なものを教材として活用する。	
			初級日本語 I B	発音から学ぶ初級レベルの授業で、言語知識を勉強しながら会話力を少しずつ身に付ける。日常生活に必要な文法知識と基礎会話を習得する。メインの教科書のほかに、実際の会話や文化的なものを教材として活用する。	
			初級日本語 I C	課題遂行型(タスク型)の教科書を使って、(1) 音声を聞く(2) 話す活動をする(3) 振り返る、のステップを繰り返すことで、CEFR-A1~A2レベルの日本語力を身に付けることを目指す。聴解音声を使って、ある程度まとまったテキスト(CEFR-A2レベル)のインプットを理解することを目指す。本授業科目は4名程度のグループでさまざまな活動を行う。	
			初級日本語 I D	本授業科目は発音からスタートする初心者向けの入門コースである。メイン教科書の内容に従って、「基礎発音、単語、文型」という流れに沿いながら基本文型の繰り返し練習と学生の発話訓練に重点を置く。日本語の基礎文法をしっかり身に付け、日常生活に必要なコミュニケーション能力を育てる。	
			初級日本語 I E	本授業科目は聴力をメインとする初級者向けの聴解訓練コースである。教科書『日本語聴力第三版学生用書入門編』(中国華東師範大学出版社)の内容に沿い、重要単語や基本文型を繰り返し聞く練習や要点説明を通して日本語を「聞く」力を育成する。また、授業の進度に合わせ、『みんなの日本語初級 I 聴解タスク25』を利用して聴解練習も行い、文脈分析、既知知識を使った予測または推測能力を養成する。	
			初級日本語 II A	文の構造と意味・機能の総合的理解を目標に、新しい文型を導入し、状況に応じて運用できるようになる練習をする。文法とともに会話力を磨く。	
			初級日本語 II B	さまざまな日常生活の場面で自然な日本語を運用して、日本語能力試験N3レベルの語彙と文法項目を学習します。文法を駆使して、発音、文章を書く練習を行う。	

留 学 生 特 別 科 目	初級日本語ⅡC	課題遂行型（タスク型）の教科書を使って、（1）音声を聞く（2）話す活動をする（3）振り返る、のステップを繰り返すことで、CEFR-A2レベルの日本語力を身に付けることを目指す。聴解音声を使って、ある程度まとまったテキスト（CEFR-A2レベル）のインプットを理解することを目指す。□ 本授業科目は4名程度のグループでさまざまな活動を行う。□	
	初級日本語ⅡD	初級用テキストで学んだ表現を使い、出来事や状況を説明したり、実際に出会うような場面を設定してその場にふさわしい会話の練習を行う。	
	初級日本語ⅡE	初級レベルの文法や語句を使った会話やアナウンス、スピーチなどが正しく聞き取れることを目指す。□法の復修、語彙の意味や使い方を確認した後、問題文で問われている内容を把握し、聴解問題にあたる。そして答え合わせをしながら発音やイントネーション等を確認する。問題にあたった後は、応用練習として会話作成や発表などを行う。□	
	中級日本語Ⅰ	専門分野のレポート、論文、専門書などを読むための基本読解能力を養成することを目的とする。『中級を学ぼう（中級前期）』をテキストにして1課ごとに、①読む前の導入、②語彙学習、③学習項目の説明、④学習項目の練習、⑤本文読解、⑥文章・論理の構成、⑦本文要約、⑧読後の課題と現実的意義の順に学習していく。	
	中級日本語Ⅱ	専門分野のレポート、論文、専門書などを読むための基本読解能力を養成することを目的とする。『中級を学ぼう（中級前期）』をテキストにして1課ごとに、①語彙学習、②学習項目の説明、③学習項目の練習、④読む前の導入、⑤本文読解、⑥文章・論理の構成、⑦本文要約、⑧読後の課題と現実的意義の順に学習していく。	
	上級日本語Ⅰ	読解、会話、聴解、作文を含む活動を通して、総合的な日本語力を付けることを目標とする。『中級を学ぼう』（中級中期）をテキストにして、1課ごとに、①本文の背景知識、②語彙の学習、③学習項目の文法・文型の学習、④学習項目の練習、⑤本文読解・理解、⑥本文要約、⑦ 関連読み物、⑧読後課題の順に学習していく。	
	上級日本語Ⅱ	読解、会話、聴解、作文を含む活動を通して、総合的な日本語力を付けることを目標とする。『中級を学ぼう』（中級中期）をテキストにして、1課ごとに、①本文の背景知識、②語彙の学習、③学習項目の文法・文型の学習、④学習項目の練習、⑤本文読解・理解、⑥本文要約、⑦ 関連読み物、⑧読後課題の順に学習していく。	
	スキルアップ講座N	日本語能力試験N1合格に必要な文法項目の習得を目指す。N1レベルの文法項目の意味や使い方を学んでいく。過去問や予想問題集を解くことで実践力を身に付けていく。	
	スキルアップ講座O	日本語能力試験N1合格に必要な文法項目の習得を目指す。N1レベルの文法項目の意味や使い方を学んでいく。過去問や予想問題集を解くことで実践力を身に付けていく。	
	スキルアップ講座P	毎回10～15の漢字を取り上げ、成り立ち、部首、用法、語彙などの練習をする。受講生には各自のレベルに合わせたプリントを用意し、それを使い、書き練習・読み練習・作文などを行う。二週目以降は授業開始時に前回授業の復修テストを行う。日本語能力試験受験希望者には受験レベルに応じた漢字教材を与え、読み方、用法を学習する。	
スキルアップ講座Q	毎回10～15の漢字を取り上げ、成り立ち、部首、用法、語彙などの練習をする。受講生には各自のレベルに合わせたプリントを用意し、それを使い、書き練習・読み練習・作文などを行う。二週目以降は授業開始時に前回授業の復修テストを行う。日本語能力試験受験希望者には受験レベルに応じた漢字教材を与え、読み方、用法を学習する。		

専門 教育 科目	学部 共通 科目	解剖生理学	解剖学と生理学は、人体の構造と機能を学ぶ学問であり、両者は統合させて理解する必要がある。効率の良いスポーツ活動を行うために、またスポーツ医学関連分野を学ぶために必要な知識を得ることを目標とし、基本的事項を重視しながら幅広い分野にわたり授業を展開する。ただしスポーツ学部であるため、神経系と筋骨格系に特に重きを置く。	
		スポーツ運動学(運動方法学を含む。)	授業の序盤においては、運動に関して意識や感覚の側面から考える運動学と他の運動に関する学問との違いを明確に理解し、運動学の独自性について説明できるようにすることを目的とする。授業の中盤以降は、運動の学習に必要な不可欠な「身体知」という多様な能力について、運動学習や運動指導に役立つ実践的理論として理解できるようにする。	
		スポーツ指導論	本授業科目では、スポーツ指導およびコーチングのための基礎を学習する。指導やコーチングは、スポーツの理念を明確にすることから始まる。スポーツの概念・現状(様相)を十分理解し、そのうえで、指導法・コーチング法の基礎、さらには教育としてのスポーツなどを考究する。中学校・高等学校で保健体育の授業および部活動(クラブ活動)の指導経験のある教員が、現場ですぐに用いることができる指導法や内容を教授する。	
		スポーツ生理学	スポーツ運動は筋収縮の総体として発現し、身体諸器官の滑らかな調節と連携により遂行されている。本授業科目では、スポーツ運動の調節のための生理的变化やスポーツトレーニングの継続による中・長期的変化について学び、スポーツ運動時の生体の適応システムを総合的に理解する。	
		スポーツバイオメカニクス	スポーツバイオメカニクスは力学、生理学、解剖学などの基礎知識を活用し、身体運動の仕組みを明らかにしようとする学問である。本授業科目では基礎となる諸学科の知識の上に身体運動の法則と歩く、走る、跳ぶ、投げる、打つ、泳ぐといった運動の基本的な仕組みを学び、利用することができるようにする。	
		スポーツ社会学	本授業科目では、教育、地域、経済、政治などさまざまな領域の中における人間関係(社会)をスポーツを通して学習する。スポーツの歴史や現場で起きているさまざまな現象について、社会学的立場から批判的、実証的に説明を行いながら課題と展望を明らかにする。	
		スポーツ心理学	スポーツにおける心理的な問題について指導者の立場、学習者の立場両面から扱っていく。主な内容は、スポーツと動機付け(やる気)、スポーツ技能の学習と指導、選手および指導者のメンタルマネジメント、スポーツと発達心理、スポーツと心理臨床についてである。それらの内容を理解することによって、スポーツ実践と指導に役立つ心理学的知見を幅広く学習する。	
		スポーツ医学	スポーツ指導者が知っておくべきスポーツ医学の知識は、捻挫、打撲、骨折、脱臼、靭帯損傷などの整形外科的疾患、呼吸循環器系疾患、感染症など多岐に渡る。本授業科目ではこれら分野に関する概要を説明するとともに、スポーツ現場で求められるスポーツ指導者としての適切な対応について学習する。	
		スポーツ栄養学	健康を保持・増進し、疾病を予防あるいは治療するうえで運動とともに食事の果たす役割は非常に大きい。本授業科目は栄養学の基礎知識を修得した後、スポーツ活動時の栄養補給・食事計画など実践的な知識を修得することを目標とする。運動時の水分補給に適した飲料、サプリメント等については、実物例を挙げながら授業を行う。	
		体力トレーニング論	本授業科目では、体力の向上を目指したトレーニングの基礎的知識について学ぶ。また、目的や状況に合わせたトレーニング処方について学び、自身に適したトレーニング内容を考える。さらに、発育発達・加齢による身体機能の変化に合わせたトレーニング処方についても学ぶ。	

専門 教育 科目	学部 共通 科目	レクリエーション論	「レクリエーションとは何か」という問いを起点に、レクリエーションの概念およびその現代における意義と課題について理解を図る。自分の人生においてどのようにレクリエーションと関わっていくかというライフサイクルプランの作成や、レクリエーション教室を企画・報告するなどの実習を交えつつ、「行う」と「支える」の両面の立場から、レクリエーション活動の意味について説明する。	
	児童 教育 科目	国語科教育概論（書写を含む。）	学習指導要領の内容に沿って、国語科教育の意義、目標や内容についての講義を行う。また、教材を提示し具体的な学習内容等にも触れながら、授業設計のために必要な基礎的な知識・技能を習得できるようにする。	
		社会科教育概論	本授業科目は、社会科教育の概論として位置付くものであり、小学校社会科の基礎的知識、社会科に関するさまざまなテーマについて理解を深めるとともに、学習指導要領における各学年の目標や内容を理解することを目指す。	
		算数科教育概論	授業目標を達成するために、算数科教育の歴史、目標や方法論などについて講義をするとともに算数科の授業構成および指導計画について数学的、教授学的、心理学的、記号論的な立場からの基本原理を講義し、理解させる。	
		理科教育概論	小学校の理科授業を行うための基底となる理科教育に関する基本的な内容について理解する。本授業科目は、わが国の理科教育の課題、小学校理科の目標および内容、各学年の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い、これからの理科教育の方向性から構成する。今日求められている理科教育の意義やねらいについて考えを深める。	
		児童英語概論	小学校における外国語活動・外国語の基本的な理解および第二言語習得に関する基本的事項について理解するとともに、外国語活動や外国語の授業実践について理解する。また、英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）を理解する。さらに、英語のinputを与える者としての役割とfacilitatorとしての教員の役割、児童の学びを観察・評価する者としての教師の役割を理解し、小学校教員としての姿勢を理解する。	
		音楽科教育概論	小学校教員のためのピアノを中心とした器楽および声楽の基礎訓練と小学校共通教材の知識・技能を演習形式で展開し、小学校教科「音楽」の意義やねらいを理解する。	
		体育科教育概論	小学校体育科の授業を実践するうえで必要となる基礎的知識を修得し、学習指導要領に示された学習内容についてその背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができるようになることを目的とする。	共同
		国語科指導法	授業前半は小学校学習指導要領で示されている教育目標、育成を目指す資質・能力を理解するとともに、教科「国語（書写を含む。）」の教材研究、教材の活用法および指導案作成力を身に付ける。後半は実践的指導力の育成を図る目的により、各班、学生による学年ごとの模擬授業を行う。	
		社会科指導法	小学校教育における教科「社会」の指導目標・内容・方法や評価に関する基礎的事項を、学習指導要領に基づき修得するとともに、模擬授業を通じて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	
算数科指導法	小学校教育における教科「算数」の指導目標・内容・方法や評価に関する基礎的事項を、学習指導要領に基づき修得するとともに、模擬授業を通じて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			

専門 教育 科目	児童 教育 科目	理科指導法	授業前半は小学校学習指導要領で示されている教育目標、育成を目指す資質・能力を理解するとともに、教科「理科」の教材研究、教材の活用法および指導案作成を身に付ける。後半は実践的指導力の育成を図る目的により、各班、学生による学年ごとの模擬授業を行う。	
		生活科指導法	小学校教育における教科「生活」の指導目標・内容・方法や評価に関する基礎的事項を、学習指導要領に基づき修得するとともに、模擬授業を通じて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	
		音楽科指導法	授業前半は小学校学習指導要領で示されている教育目標、育成を目指す資質・能力を理解するとともに、教科「音楽」の教材研究、教材の活用法および指導案作成を身に付ける。後半は実践的指導力の育成を図る目的により、各班、学生による学年ごとの模擬授業を行う。	
		図画工作指導法	授業前半は小学校学習指導要領で示されている教育目標、育成を目指す資質・能力を理解するとともに、教科「図画工作」の教材研究、教材の活用法および指導案作成を身に付ける。後半は実践的指導力の育成を図る目的により、各班、学生による学年ごとの模擬授業を行う。	
		家庭科指導法	授業前半は小学校学習指導要領で示されている教育目標、育成を目指す資質・能力を理解するとともに、教科「家庭科」の教材研究、教材の活用法および指導案作成を身に付ける。後半は実践的指導力の育成を図る目的により、各班、学生による学年ごとの模擬授業を行う。	
		体育科指導法	小学校体育科の授業を実践できるようになるために、体育の授業設計を行い、教育実践ができるようになることを目的とする。講義前半は体育学習の現状と課題や小学校学習指導要領の教育目標、教育内容を理解するとともに、教科「体育」の教材研究、教材の活用法および指導案作成力を身に付ける。講義後半は1人1つの学習指導案を作成し、指導案に基づいた模擬授業を行う。また、模擬授業後に学生間の意見交換や授業映像の振り返りを通して省察を行う。	
		児童英語指導法	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）に関する背景、知識や子どもの第二言語習得の特徴を授業において取り上げ、学習指導要領で求められていることは何か、またそれをどのような方法で実践すれば、どのような効果が期待できるかを考えていく。小学校英語ではなにを教えるのか。英語教育の目的は何か、英語コミュニケーションとは何かという観点を常に持つ姿勢を養う。また、教室英語や教師が使う英語を児童がどのように受け入れるかを理解するとともに、国語教育等との連携および小・中・高校の連携において、小学校での役割について理解する。	
		水泳指導法	本授業科目では特に、小学校から高等学校までの「学校水泳」における水泳指導法を身に付けた教員の養成を目指す。これまでの保健体育科教諭（専門：水泳）、日本スポーツ協会公認「水泳コーチ4」としての実務経験を活かした授業を展開する。初心者を対象にした「水遊び」や初級者を対象とした「水慣れ、浮く・進む」から、中級者・上級者の各種泳法（4泳法）までの基本的な指導法を理解させるとともに、学習者のレベルに応じた水泳指導の工夫をすることができる指導力の育成を目指す。授業における具体的な課題等を取り上げ、ペアやグループによる学び合いや模擬授業等のALの学習法を取り入れ、学生の主体的な学びを推進する。	
		ダンス指導法	「ダンス」は、学習指導要領に示されている運動領域の一つであり、中学校・高等学校において扱う領域として位置づけられている。本授業科目では、さまざまなダンス（現代的なリズム、フォークダンス、創作ダンス）の体験を通して、基礎的な技術を習得し、指導するうえで必要となる身体表現の基礎を身に付けることを目的とする。具体的には、ダンス理論や基礎的なダンスの動き、ダンス指導の際の留意点などを実技を通して学修する。	

専門教育科目	児童教育科目	キャリアアドバンス教員養成（初等）Ⅰ	<p>本授業科目は、将来小学校教員を志望する学生に対して、夏期および冬期等に教員採用試験の筆答試験対策、面接および模擬授業等の対策、最新の教育事情の解説等を集中で行い、能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>① 高田 俊也・7 清永 裕子/10回 教職教養、一般教養、専門教養の模擬試験の復修等を行う。</p> <p>① 高田 俊也・5 蔵内 保明・6 田口 誠/5回 面接、模擬試験等2次試験対策等を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		キャリアアドバンス教員養成（初等）Ⅱ	<p>将来、小学校の教員を志望する学生に対して、2年次の「キャリアアドバンス教員養成（初等）Ⅰ」から継続して、「キャリアアドバンス教員養成（初等）Ⅱ」として、4年次の教員採用試験終了までの期間に教員採用試験の筆頭試験対策、面接および模擬授業等の対策、最新の教育事情の解説等を集中で行い、能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>① 高田 俊也・7 清永 裕子/7回 教職教養、一般教養、専門教養の模擬試験の復修等を行う。</p> <p>① 高田 俊也・5 蔵内 保明・6 田口 誠/8回 面接、模擬試験等2次試験対策等を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		キャリアアドバンス教員養成（初等）Ⅲ	<p>本授業科目は実技試験を念頭に、音楽実技、体育実技、英語力、板書力の能力を高めることを目的とする。音楽実技については、ピアノ演奏の基礎知識や基礎技能を習得することをねらいとする。体育実技については、マット運動、陸上運動、水泳の技能を習得することをねらいとする。英語力、板書力については、採用試験の出題傾向を踏まえ、必要な基礎知識や基礎技能を習得することをねらいとする。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>⑤ 蔵内 保明・10 佐藤 紗和子・11 山口 恭平・78 中島 久代/1回 オリエンテーションとして、授業計画・評価方法等について説明する。</p> <p>⑩ 佐藤 紗和子/6回 音楽実技として、基礎技能に関する説明や練習問題、ピアノ演習を行う。</p> <p>⑪ 山口 恭平/6回 体育実技として、マット運動、陸上運動、水泳に関する基礎技能について説明し、演習を行う。</p> <p>⑦⑧ 中島 久代/1回 英語力獲得に必要な基礎技能について説明し、演習を行う。</p> <p>⑤ 蔵内 保明/1回 板書力獲得に必要な基礎技能について説明し、演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

専門教育科目	児童教育科目	キャリアアドバンス教員養成(初等)IV	<p>本授業科目は、3年次の「キャリアアドバンス教員養成(初等)Ⅲ」から継続して、「キャリアアドバンス教員養成(初等)Ⅳ」として、4年次の教員採用試験終了までの期間に、実技試験を念頭に、音楽実技、体育実技、英語力、板書力の能力を高めることを目的とする。音楽実技については、ピアノ演奏の基礎知識や基礎技能を習得することをねらいとする。体育実技については、マット運動、陸上運動、水泳の技能を習得することをねらいとする。英語力、板書力については、採用試験の出題傾向を踏まえ、必要な基礎知識や基礎技能を習得することをねらいとする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 山口 恭平/6回) 体育実技として、マット運動、陸上運動、水泳に関する基礎技能について説明し、演習を行う。</p> <p>(10 佐藤 紗和子/6回) 音楽実技として、基礎技能に関する説明や練習問題、ピアノ演習を行う。</p> <p>(78 中島 久代/1回) 英語力獲得に必要な基礎技能について説明し、演習を行う。</p> <p>(5 蔵内 保明/1回) 板書力獲得に必要な基礎技能について説明し、演習を行う。</p> <p>(5 蔵内 保明・10 佐藤 紗和子・11 山口 恭平・78 中島 久代/1回) 総括として、自身の実技力や教授力に必要な課題を明確にし、練習を重ねて、テストを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
スポーツ教育科目		<p>スポーツ教育概論</p> <p>学校体育のマネジメント</p> <p>学校体育指導演習</p> <p>器械運動指導法(体づくり運動を含む。)</p> <p>陸上競技指導法</p>	<p>2012年に指導者の体罰による運動部活動生徒の自死は大きな社会問題となったが、その後も運動部活動における体罰・暴力問題は後を絶たない。他にも、運動する子と運動しない子の二極化現象、子どもの体力低下問題など、我が国の体育・スポーツ界はさまざまな問題を抱えている。本授業科目では、スポーツや学校体育の本質を考え原理・原則を明確にするために、スポーツ・体育の歴史的変遷、勝利至上主義、商業主義などさまざまな視点から現代の体育・スポーツについて考察する。前半は講義形式でレクチャーし、後半はレポート作成、ディスカッション、調査学習、プレゼンテーション等を通して問題について考えを深め、自己の考えを表現する。</p> <p>保障する上でマネジメント技術は最も重要で、準備・後片付けのみならず、授業中の説明や安全管理、学習者の学習意欲促進のための演出(教材、教具、用具、器具等)のため、どのように計画すればいいのか理解する。</p> <p>本授業科目では、体育授業を行うための単元構造図、学習指導案の作成、それらに基づいた模擬授業の実践を行う。第1回目の模擬授業では特に、マネジメント、学習規律肯定的人間関係、情緒的開放といった体育授業の基礎的条件に着目する。第2回目の模擬授業では特に、明確な学習目標、興味を引く内容、教材、場づくり、教師の指導性といった内容的条件に着目する。また、模擬授業の分析、省察を行い、学習指導案の修正、改善を図り、より良い授業実践につなげていく。</p> <p>器械運動の各種目(マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動)には多くの技が存在するが、それらの技は運動技術的に類縁性を有する技群にまとめることができる。本授業科目では、体操競技および、器械運動の指導経験を有する教員が、それぞれの技の基本技術や系統性について実務経験を踏まえて授業を行い、これらを理解することで効果的に技を習得できることを理解する。また、補助の方法や練習の場づくりに関する知識を身に付け、指導における実践的な能力を高める。なお、授業は講義と実技を合わせて行う。</p> <p>学習指導要領解説にある中学校・高等学校の各種目の技能についての確認を行い、種目の基礎知識や種目の特性に合った具体的な指導方法を学習させることで陸上競技の指導力向上を目指す。また、講義で学習した指導方法を実践し、お互いに技能の習得を目指すことで、指導法の実践力向上を目指す。</p>	<p>共同</p> <p>共同</p>

専門 教育 科目	ス ポ ー ツ 教 育 科 目	球技指導法 A	「球技」の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の教授法を身に付ける。段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させる。スポーツ教育の一環としての球技において、一生懸命取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本授業科目では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。対象種目は「ハンドボール」、「バスケットボール」、「サッカー」である。□	
		球技指導法 B	球技の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の教授法を身に付ける。段階的に戦術や戦術行動の理解及び指導方法の立案等の学習に発展させる。スポーツ教育の一環としての球技において、一生懸命取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本授業科目では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。対象種目は「ラグビー」、「バレーボール」、「バドミントン」である。	
		武道指導法	学校体育における武道領域の授業展開において必要な単元構想力、授業設計力、教材開発力、実践的指導力の修得を図る。各種武道（剣道・柔道）における個人技能および対人技能を安全に楽しく習得させるための実技と演習を行う。	
		学校保健Ⅰ（学校安全を含む。）	「学校保健」および「学校安全」の性格を理解しつつ、歴史的な背景を踏まえて、「学校保健活動」を具体的な実践として説明できることを目指す。そのため、既存の理論・データおよび現場の状況から「学校保健活動」を理解できるように、教員が各テーマについて解説する時間だけではなく、受講生同士が持つ考え方やアイデアを共有し合う活動を行う。	
		学校保健Ⅱ（小児保健を含む。）	「学校保健」、特に「小児保健」の性格を理解しつつ、歴史的な背景を踏まえて、「学校保健活動」を具体的な実践として説明できることを目指す。そのため、既存の理論・データおよび現場の状況から「学校保健活動」を理解できるように、教員が各テーマについて解説する時間だけではなく、受講生同士が持つ考え方やアイデアを共有し合う活動を行う。	
		精神保健	現代は子どもの精神保健への関心が高まる一方で、家庭における子育て機能の低下が問題となっている。これを補強するのは、子どもに日常的に接する教師や保護者の働きであろう。本授業科目は、現代社会に生きる子どもの精神保健を理解するための基礎知識とその背景となる臨床心理学を学んでいく。	
		学校保健指導演習	本授業科目では、体育授業を行うための単元構造図、学習指導案の作成、それらに基づいた模擬授業の実践を行う。第1回目の模擬授業では特に、マネジメント、学習規律肯定的人間関係、情緒的開放といった体育授業の基礎的条件に着目する。第2回目の模擬授業では特に、明確な学習目標、興味を引く内容、教材、場づくり、教師の指導性といった内容的条件に着目する。また、模擬授業の分析、省察を行い、学習指導案の修正、改善を図り、より良い授業実践につなげていく。	
		ジュニアスポーツ論	年齢段階の発育・発達およびその個人差を理解し、それに応じたプログラムを選択、指導することが必要である。理解なく、誤った指導を行った場合、子どもにとって重大なスポーツ障害を発症させる可能性がある。本授業科目では、乳幼児期から青年期までの発育・発達に応じたスポーツプログラムについて体系的に学習し、ジュニアスポーツを指導するものとして必要な能力を身に付けた学生の育成を目指す。	
		ジュニアスポーツ指導演習	本授業科目は、ジュニアスポーツの指導場面において必要とされる、コーディネーショントレーニングの指導方法について、主に理論学習や模擬指導を実施する。また、子どもたちが自主的に運動（活動）を行えるようなゲームを紹介する。	

専門教育科目	スポーツ教育科目	衛生学及び公衆衛生学	衛生学・公衆衛生とは、社会で生活しているすべての人々を対象とし、集団の健康を維持増進させようとする学問である。本授業科目では、人間の健康に影響を与える、自然・社会・環境等の包括的理解を重視していく。また、疫学的研究手法や集団の疾病対策についての知識を深め、地域社会の中での多様な健康課題についてそれぞれどのような対策が立てられているのか、その科学的活動および実践的活動について検討できるようにする。	
		救急処置	学校現場およびスポーツ現場における救急処置技術の期待は大きい。特に学校現場で発生した傷病に対し、重症度・緊急度の判断を行い、被害を最小限にし、苦痛の緩和を図り、安全・安楽な状態にするため状態にするための処置が必要とされる。病状や状況の判断に必要な知識と、各症状に対する救急処置、さらには救急時の適切な指導を理解する。	
	ゼミナール科	ゼミナールⅠ	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。本授業科目では、情報収集の実践に重点を置き、担当教員が設定したテーマについて情報を各自で収集する。収集した情報は、各自で精査・整理・分析を行い、その結果をまとめて発表する。	
		ゼミナールⅡ	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。本授業科目では、多面的な情報収集の手法の習得、および、要約・分析の実践に重点を置き、担当教員が設定したテーマについて複数の手法で情報を収集する。収集した情報は、要約・分析を行った後、考察をまとめて発表する。	
		ゼミナールⅢ	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。本授業科目では、グループで情報収集、要約・分析、発表を行うことに重点を置く。担当教員が設定したテーマについて分担して情報収集し、グループディスカッションを行うなどして、グループとしての分析結果をまとめる。まとめた分析結果をグループごとに発表する。	
		ゼミナールⅣ	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。本授業科目では、「ゼミナールⅢ」に引き続き、グループで情報収集、要約・分析、発表を行うことに重点を置く。グループディスカッションを通して、テーマ設定、情報の集約、分析、考察を行う。分析結果はパワーポイントにまとめてグループごとに発表する。	
		キャリア発展ゼミナール	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。本授業科目では、「ゼミナールⅠ～Ⅳ」で習得したことを基に、興味・関心のある分野に関する卒業研究を行う。研究の成果は、研究レポート（卒業論文）としてまとめ、発表を行う。	
	スポーツ実技科目	体操（体づくり運動を含む。）	体操（体づくり運動）は、体ほぐしの運動と体力を高める運動で構成されている。教員としての指導実践の知見をベースにして授業を展開し、自他の心と体に向き合っって体を動かす楽しさを味わい、心と体をほぐす運動や体力を高めるための運動の行い方を理解できるようにする。	
		器械運動	器械運動（マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動）の技の基本技術と指導法について学習する。それぞれの技の運動構造を理解し、系統的・段階的に技を習得していく。また、安全に配慮し練習環境の工夫や補助法についても正しく理解する。	
		陸上競技A	「陸上競技」は、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。人間にとって単純な動作に見える走・跳・投にも、速く走る、遠くに跳ぶ、遠くに投げるための原理・原則が存在する。本授業科目では、短距離走、ハードル走、走り幅跳びの各種目を取り上げ、その技能を高めるとともに、より良い動作の原理・原則を理解し、初心者指導法を学習する。	

専門教育科目	スポーツ実技科目	陸上競技B	「陸上競技」は、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。人間にとって単純な動作に見える走・跳・投にも、速く走る、遠くに跳ぶ、遠くに投げるための原理・原則が存在する。本授業科目においては、やり投げ(ジャベリックスロー)、走り高跳び、砲丸投げの各種目を取り上げ、その技能を高めるとともに、より良い動作の原理・原則を理解し、初心者指導法を学習する。	
		水泳	クロールおよび平泳ぎを中心に、続けて長く、または速く泳ぐための基本的技術および知識を習得する。また、水の特性を知り、水中で効率的に推進力を得る方法について、実技だけでなく視覚的教材も用いて理解を深める。さらに、基本的な泳法と水の特性に関する知識を応用して、水中・水上における事故防止のための安全管理についても学習する。	
		バスケットボール	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。バスケットボールにおける基礎技術である(シュート、パス、ドリブル)を学習する。また、基礎技術の習得とともに集団技術(防衛から攻撃、攻撃から防衛)を学習する。そのためには、バスケットボールのフォーメーション(スクリーンプレー、ポストプレー、ナンバープレー)を学習し、バスケットボールにおける特性を理解しながら各ポジション(ガード、フォワード、センター)に分けてゲームを通じて理解を深めて学習する。	共同
		バレーボール	バレーボールは、競技スポーツとしてだけでなく生涯スポーツとしても広く親しまれ、ラリーゲームを通して高いコミュニケーション力が必要であることを理解し、他者との情報を共有しながら競技する重要性を学習する。また、バレーボールを実践するうえで、必要な体力や動作分析を行い、運動の分析や観察力を養う方法についても学習する。	
		サッカー	本授業科目では、サッカーの技術や戦術の特性およびボールを扱う楽しさや、相手との駆け引きの楽しさを学習しながら、サッカーに必要な技術(多種のパスやシュート、ドリブル)や戦術的要素(守り方や攻め方)を習得し、その中で体力の向上を図る。さらには、サッカーにはコミュニケーションやチームワークが不可欠であることを理解し、互いに協力して練習やゲームを進めていく中で、リーダーシップやスポーツマンシップの向上を目指す。	
		ハンドボール	ハンドボールは「走・跳・投」からなっており、これらを支える基礎体力の養成に十分役立つ教材である。また、比較的小さなボールを器用な手で扱えるため、誰でも容易にプレーできる特徴を持っている。本授業科目では、ハンドボールの歴史・特性・ルールおよび審判法を実技の中で概説し、ゴール型ボールゲームとしての攻撃方法および防御方法を指導する。	
		ラグビー	ラグビーW杯2019日本大会において日本代表は予選プールを4連勝し、史上初のベスト8で大会を終えた。急成長を遂げる日本ラグビーは今や全世界からも注目される存在となった。日本ラグビーフットボール協会はDevelopment Program, Elite Program, Top Programの3つの指導プログラムの必要性を提唱しているが、カテゴリーやコンテキストにおけるコーチングの目的達成に向けて、一貫した指導が必要である。そこで本授業科目では、ラグビーの競技特性を理解し、パス、ラン、キックなどの基本動作を習得し、さまざまな状況に応じたプレー選択へと発展させ、実践的なスキル獲得のための指導法についても学んでいく。	
		ソフトボール・野球	ソフトボールは投げる、打つ、走る、捕るなどの基本的運動が多く含まれるスポーツである。本授業科目では、ソフトボールの基本的な技術や戦術を説明し、その練習方法を紹介する。また、ゲームを通して、そのゲーム場面で起こる種々のプレイを実践展開する。ゲームを行う場合にはスコアを記入する。各自の打率や打点、失策の数、ファインプレーなどを用紙に記録し、集計する。	
		テニス	担当教員は、テニスプレーヤーとして多くの大会に出場した。この経験を元に競技レベルの実技解説と、初心者へむけた技術指導を行う。テニスは、複数の打法を組み合わせるゲームを楽しむスポーツである。したがって、多数の動作を習得する必要があり、動作の分析や運動の仕組みを学習する。また、対戦相手が必要な競技特性から強度のコントロールを学ぶ必要もある。テニスを通じたコミュニケーションおよび仲間との協調性も学び、生涯スポーツとしてテニスを続けられる技術習得を目指す。	

専門教育科目	スポーツ実技科目	バドミントン	バドミントンは生涯スポーツに適した種目の一つであり、学校体育の中でも盛んに取り入れられている。本授業科目は、バドミントンの基本的な技術の向上を図り、競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法の習得を図る。また、戦術やルールについて理解し、中学や高校における体育授業の実践を念頭に置いた初心者指導について学ぶ。中学および高校の教員経験を活かし、授業を展開する。	
		ダンス	創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンス学習を通して、自己の内面を表現することや互いの良さを認め合う態度を身に付けることに加え、全身を使って精一杯体を動かし、感情と動きの関係性や表現性を理解し、自己表現と他者受容についても学ぶ。また、指導法としての課題の特性の理解や、指導実践における課題への気づきなど、具体的な視点を持ち学修する。	
		剣道	日本の代表的な身体運動文化である剣道の特性を理解し、伝統的な修練により正しい剣道の学び方や指導法を習得する。さらに、合理的身体操作の観点から剣道技術をとらえる着眼点を身に付ける。中学校・高等学校の保健体育授業で「剣道」の指導経験のある教員が、現場に即した指導法を教授する。	
		柔道	柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」について理解したうえで、授業を行う。柔道に必要な基本動作（礼法、姿勢、受け身、進退動作、崩しなど）、投げ技（手技、腰技、足技）、固め技（抑え技）の習得に取り組む。また、武道必修化に対応できるように、柔道の授業を安全に行うための指導法、審判規定審判法についても解説する。	
		レクリエーション実技	さまざまなレクリエーション活動を実施し、その楽しさを体験することを通じて、コミュニケーションの促進や活動を効果的に展開するための方法、対象に合わせた内容のアレンジ方法などを学習する。こうした学習内容を踏まえて、レクリエーション活動の指導プログラムを立案、実施出来るようになることを目指す。	
		キャンプ	恵まれた自然環境と施設の中で、キャンプ指導者としての自然におけるマナーや人との関わり、野外活動の基礎から応用を体得し、さらに指導・立案・計画方法等や、さまざまな指導場面での実践方法を学ぶ。	共同
自由選択科目	教職論	教職課程の初年度は、学校・教師に関する基礎的事項についての知識の習得および理解が必要となる。教職論は、具体的に教師の仕事とは何か、学校とはどのような組織か、教師にはどのような資質・能力が求められているのか等を理解していくための教職課程の導入科目である。		
	教育原論	本授業科目は、教育の必要性や目的・理念、歴史等教育に関する基礎概念に関する学習を通して教員に必要な基礎知識等を身に付けることを目的としている。本授業科目においては、①教育の必要性や意義・意味について考察を深めたうえで、②西洋教育思想の流れとその思想が社会や日本に与えた影響に関する理解、③日本における教育思想の流れと教育システムの展開や関連事項について学習する。		
	教育心理学	認知、学習、発達の主要な理論について知り、教育場面における心理社会的課題とその支援方法について考える。		
	特別支援教育概論	発達障害や身体障害等の障害、また母国語や貧困の問題等により特別な教育的ニーズをもつ幼児・児童および生徒の特性や学習上、生活上の困難について知り、関連する制度や支援方法について確認する。		

自由 選 択 科 目	教育制度論	本授業科目は、教育職員免許法施行規則に規定する「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項に関する科目」として大学が開設している科目であり、教員免許状取得に必須の科目である。皆さんにとって学校に通うことは「当たり前」のことだったかもしれない。しかし、そうした自明性を疑うことで、日本の教育がどのような理念に基づいて、教育を受けることを中心とする諸権利を実現し、あるいは実現していないのかということに目を向けたい。また、そこから理念の実現に向けて、どのような教育制度が制度化されているのか、法制から学校運営の次元に至るまで、幅広く概要を理解することに努める。	
	教育課程論	本授業科目は、教育職員免許法施行規則に規定する「教育の基礎的理解に関する科目」における「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む）」に関する科目として開設している科目であり、教員免許状取得に必須の科目である。本授業科目での主な学習内容は、①教育課程とは何か、②教育改革と教育課程の変遷過程、③教育課程の編成・実施・評価である。	
	道徳教育指導法	本授業科目では、小学校および中学校教員すべてに求められることとなる道徳教育に関する理論・実践の知識の伝達を行うこととなる。その際、受講生には、日常的にあたりまえに用いている「道徳」という言葉にまつわる価値に対する批判的な検討を行う姿勢が求められるだろう。上記の批判的思考をもって、現在の教育現場に求められている道徳教育の意義について深く理解し、かつ実践可能な教育実践家の育成こそが、本授業科目の大きな目標となる。	
	教育方法論（情報通信技術の活用を含む。）	本授業科目は、教育職員免許法施行規則の事項「教育の方法及び技術」と「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」を併せて取扱い開設する科目で、教員免許状取得に必須である。本授業科目の学修内容は、①これからの社会を担う子どもたちに求められる資質能力を育成するために必要な教育の方法、②教育の目的に適した指導技術、③情報通信技術の活用の意義と理論、④情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進、⑤児童等に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法である。	共同
	特別活動・総合的な学習の時間指導法	学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点や他の教員、地域や関係諸機関と連携した「チーム学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識と素養を理解する。また、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を追求する学びを実現するため、総合的な学習（探究）の時間の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。	
	生徒・進路指導論	児童生徒理解（児童・生徒等との信頼関係）に基づいた生徒指導・進路指導の知識や指導の方法を身に付け、新しい時代に必要となる資質・能力を持った人材の育成を担うことができる教員の養成を目指す。これまでの生徒指導主事や管理職等としての学校教育現場や教育行政等での実務経験を活かし、授業を展開する。生徒指導提要（文科省）の内容を中心にしながら学校教育現場における実例を交え、ICTを用いて説明するとともに、ペアやグループによるディスカッションやワーク、ジグソー法などのアクティブ・ラーニングの学習法を取り入れ、学生の主体的な学びを推進する。	
	教育相談	学校教育における教育相談の意義と位置付けを理解し、幼児児童生徒理解のために必要となる基礎的な心理的理論やカウンセリングに関する基礎的・技術について学ぶ。さらに、具体的な援助場面における教育相談的取り組みや学校における教育相談体制について知る。□	
	学校体験活動	学校現場が抱える諸問題については、いじめ、不登校、体罰、学級崩壊などさまざまな教育課題が指摘されている。そのような中、これからの教師には何が求められているのだろうか。担当者の教育現場での実務経験を活かし学校実態を学ぶとともに、本授業科目において、学生が実際に学校現場での実習を通し、現在の子どもの状況を体験的に学ぶとともに現役教師の指導を観察・補助し、教師としての資質と能力を高めることを目指す。	

自由 選択 科目	教育実習（小）	所定の単位を履修し、事前指導を修了した学生が教職に就くために最低必要な学外での実習指導である。小学校における実習は4週間行う。実習はこれまで学んできたことを実践する機会である。教育現場の実態に触れ、多くを学ぶことが期待される。なお、実習中には担当教員が実習校と打ち合わせて巡回指導を行う。	
	教育実習事前事後指導（小）	小学校教諭免許状取得を目指して教育実習の意義と目的を理解するとともに、教育現場に教員経験がある担当教員が、小学校教諭の職務や責任、学校組織等について説明する。また、教育実習校との連絡や実習をスムーズに進めるために、児童との関わり方や学習指導案または指導計画に基づいた授業運営等、小学校教員として求められる専門性を深めていく。	
	教職実践演習（小・中・高）	本授業科目は教員養成制度改革の一つとして創設された教職課程における必修科目である。本授業科目最大のねらいは、「教職課程の総仕上げ」である。これまで履修した科目の理解度を確認するとともに、教育実習を経て成長した部分や残された課題を自分自身で把握し、主体的に取り組むことにより卒業までの期間、教員志望者としてより一層の成長することを目指す。	
自由 科目	教職課程関連科目		
	保健体育科教育法Ⅰ	本授業科目では、保健体育科教育の目的、内容、方法、評価等についての理論的な学習と、文部科学省告示「学習指導要領」に関する内容の理解を深める。また、優れた体育授業の具体例を紹介しながら、体育教師としての心構え、よい指導法、よい授業づくりについての考え方について学ぶ。それらを通して、保健体育科教員として実際の教育現場で授業を展開していくために必要な基礎的資質を養うことをねらいとする。	
	保健体育科教育法Ⅱ	本授業科目は、保健体育科の指導計画を作成できるようになることを目的としている。毎回の授業では、保健体育科の各領域の指導計画作成のポイントの解説、各自での指導計画の作成、グループでの発表および振り返りやミニ模擬授業を行う。前期の「保健体育科教育法Ⅰ」で学んだ理論をもとに、よい体育授業の実践の基礎的条件となる指導計画の作成のポイントを学習し、次年度以降の模擬授業や教育実習に取り組むための準備を進めていく。	
	保健体育科教育法Ⅲ	本授業科目では、保健体育科教育の理論的側面、実践的側面および諸計画の立案についての理解を深めるため、模擬授業の計画・実践・評価を行う。各自のテーマに基づく模擬授業の実践を通して、指導者、学習者、学習指導、評価等についての理解を深めるとともに教育実習への準備を進めていく。	
	保健体育科教育法Ⅳ	本授業科目では、保健体育科教育の理論的側面、実践的側面および諸計画の立案についての理解を深めるため、模擬授業の計画・実践・評価を行う。各自のテーマに基づく模擬授業の実践を通して、指導者、学習者、学習指導、評価等についての理解を深めるとともに教育実習への準備を進めていく。	
	教育実習Ⅰ（中・高）	教育実習校では、教科指導のみならず学級経営など学校教育のすべてにわたり指導を受ける。大学で学んだ、教科や教職についての理論を体験的に実践するとともに、深化させ、教師としての総合的な教育指導力を身に付けるべく、教育実習校と本学との相互連携において指導が行われる。	
	教育実習Ⅱ（中・高）	教育実習校では、教科指導のみならず学級経営など学校教育のすべてにわたり指導を受ける。大学で学んだ、教科や教職についての理論を体験的に実践するとともに、深化させ、教師としての総合的な教育指導力を身に付けるべく、教育実習校と本学との相互連携において指導が行われる。	
	教育実習事前事後指導（中・高）	1) 事前指導：教育実習の意義を理解し、教育実習に必要な知識を習得する。教育実習生としてのマナーを確認して、これまでの教職課程で学んだことを総括する。 2) 事後指導：教育実習での活動を振り返り、レポートを作成する。教育実習の成果をこれからの自己形成、進路にどう活かすのか考察する。実務家教員については、学校教育現場での勤務経験を活かし、授業を展開する。	

自由科目	K-CIP関連科目	
	公務員試験概論	公務員採用試験対策の準備段階として、公務員の職種紹介を行い、志望職種を選択するために必要な情報提供を行う。また、試験制度や受験科目の説明を行い、今後の学習の指針を示す。さらに、数的処理といった公務員試験特有の科目紹介、身の回りのニュースなどを題材にした社会科学分野の学習などを通じて、今後の学習の準備を行う。本授業科目を通じて、公務員試験について理解し、今後の学習計画が立案できることを目指す。
	数的処理Ⅰ	公務員採用試験での判断推理、数的推理、資料解釈といった科目や、民間企業採用試験で実施されるSPI3試験の非言語分野の問題で必要となる数的処理能力の向上を目指し講義を行う。本授業科目では特に基礎的な内容を重視し、多くの問題に触れながら解法のポイントを紹介し、課題を論理的に解決する方法を学ぶ。また、問題解決で必要になる数学に関する知識に関しても中学校、高等学校の復習を行い、基礎的な数学力を身に付ける。
	社会科学Ⅰ	公務員採用試験で出題される社会科学の内容について学習する。本授業科目では社会科学の中でも特に経済分野の学習を中心に行い、高等学校で学習する政治経済分野の内容だけでなく、専門科目のミクロ経済学や経済史、金融政策などの基礎的な内容まで学習する。本授業科目を受講することによって、公務員採用試験での社会科学分野での得点力向上や知識習得だけでなく、専門科目の学習をスムーズに始めることができる。
	教職一般教養Ⅰ	教員採用選考の一般教養試験で出題される内容について学修する。高校時代に履修した社会・理科・国語・英語の内容について、振り返りと知識の確認を行う。実際の採用試験問題等にも触れながら教員採用選考合格に向けた実践力を身に付ける。
	教職一般教養Ⅱ	教員採用選考の一般教養試験で出題される内容について実際に問題を解く力を学修する。高校時代に履修した社会・理科・国語・英語の内容について、問題演習および解説で確認を行う。実際の採用試験問題等にも触れながら教員採用選考合格に向けた実践力を身に付ける。
	文章理解	公務員採用試験での文章理解や民間企業採用試験で実施されるSPI3試験などで課せられる長文読解を中心に講義を行う。文章読解能力は採用試験で必要となるだけでなく、日常的なコミュニケーションやあらゆる科目の学習の基礎となる能力であり、社会で活躍する人材になるうえで必要不可欠な能力である。本授業科目ではより多くの文章に触れながら自ら文章を読み、自ら考えることを重視し、読解能力の向上を目指す。
	数的処理Ⅱ	公務員採用試験での判断推理、数的推理、資料解釈といった科目や、民間企業採用試験で実施されるSPI3試験で必要となる数的処理能力の向上を目指し講義を行う。本授業科目では「数的処理Ⅰ」で学習した内容を基に、さらに多くの問題に触れながら応用問題、発展問題の解法について学習を行う。また、「数的処理Ⅰ」では学習しなかった問題についても学習し、数的処理能力を向上させ、より多くの課題を解決できる力を身に付ける。
	数的処理Ⅲ	公務員採用試験での判断推理、数的推理などの科目で必要となる数的処理能力の向上を目指し講義を行う。本授業科目では「数的処理Ⅰ」「数的処理Ⅱ」で学習した内容を基に、実際の公務員採用試験の問題にも触れながら問題の解法について学習を行う。また、「数的処理Ⅰ」「数的処理Ⅱ」では学習しなかったパターンの問題の解法などについても学習し、採用試験に向けてより実戦的な力を身に付け得点力の向上、課題解決能力の向上を目指す。
社会科学Ⅱ	公務員採用試験で出題される社会科学の内容について学習する。本授業科目では社会科学分野の中でも特に政治・法律分野の学習を中心に行い、高等学校で学習する政治経済分野の内容だけでなく、専門科目の憲法や政治学などの基礎的な内容まで学習する。本授業科目を受講することによって、公務員採用試験での社会科学分野での得点力向上や知識習得だけでなく、憲法などの専門科目の学習をスムーズに始めることができる。	

自由科目	自然科学	公務員採用試験で出題される自然科学の内容について、中学校、高等学校での学習内容の復習を中心に講義を行う。本授業科目で学習する内容は、民間企業、公務員を問わず、就職試験で一般常識として問われる内容でもあり、社会人として必要な知識を習得する。各科目ごとの講義回数は少ないため、特に採用試験で頻出のテーマや一般常識として身に付けておきたいテーマを中心に講義を行い、今後の学習に繋げることを目的とする。	
	人文科学	公務員採用試験で出題される人文科学の内容について、中学校、高等学校での学習内容の復習を中心に講義を行う。本授業科目で学習する内容は、民間企業、公務員を問わず、就職試験で一般常識として問われる内容でもあり、社会人として必要な知識を習得する。各科目ごとの講義回数は少ないため、特に採用試験で頻出のテーマや一般常識として身に付けておきたいテーマを中心に講義を行い、今後の学習に繋げることを目的とする。	
	憲法演習	公務員採用試験で出題される憲法について学習する。憲法は全ての法律の拠り所となる存在で、数多くの法律の中でも重要な役割を担っている。総論、人権、統治機構が主な内容であり、本授業科目では、これらの内容について条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、各論点について公務員採用試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
	民法（総則、物権）演習	公務員採用試験で出題される民法について学習する。民法は身近な法律ではあるが、条文の数や論点が多く、学習する内容は膨大である。本授業科目では、民法の中でも総則、物権の内容について、特に公務員試験で重要になる条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、各論点について公務員採用試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
	民法（債権、親族・相続）演習	公務員採用試験の専門試験において出題される民法について講義を行う。民法は身近なことに関する法律ではあるが、条文の数や論点が多く、学習する内容は膨大である。本授業科目では、民法の中でも「債権」「親族・相続」の内容について、特に公務員試験で重要になる条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、各論点について公務員採用試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
	行政法演習	公務員採用試験の専門試験において出題される行政法について講義を行う。行政法や他の民法や商法のように単独の法典は存在せず、行政に関連する法律の総称であるため、全体像が見えにくく学習を進めにくい科目であるが、公務員として働く上で行政に関する法律の知識は必須である。本授業科目では、地方自治法や行政手続法、国家賠償法などの行政法について、特に公務員採用試験で重要になる条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、各論点について公務員採用試験で出題される実際の問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
	ミクロ経済学演習	公務員採用試験の専門試験において出題される経済原論のうち、ミクロ経済学の分野について講義を行う。経済学の中でもミクロ経済学は特に消費者や企業の行動に着目し価格の決まり方などについて学習する。また、科目の性質上、微分などの数学的な知識が必要となるが、初学者でも理解できるように講義を進めていく。本授業科目では、特に公務員採用試験で重要になる論点の学習を行うが、同時に実際に出題される試験問題にも触れることで、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
	マクロ経済学演習	公務員採用試験の専門試験において出題される経済原論のうち、マクロ経済学の分野について講義を行う。経済学の中でもマクロ経済学は国家や市場といった大きな視点から経済のメカニズムについて学習する。また、科目の性質上、微分などの数学的な知識が必要となるが、理解できるように講義を進めていく。本授業科目では、特に公務員採用試験で重要になる論点の学習を行うが、同時に実際に出題される試験問題にも触れることで、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	

自由科目	教職教養基礎Ⅰ	教員採用試験の教職教養試験で出題される教育原理・教育心理について学習する。教職教養試験で出題される主要事項の重要論点について知識を整理し、理解を深める。教育委員会の人事担当や校長等で教員養成・採用・育成などの実務経験豊富な教員の指導を通して、実際の採用試験問題等にも触れながら教員採用試験合格に向けた実践力を身に付ける。	
	保健体育科Ⅰ	新しい時代に必要となる資質・能力を持った人材の育成を担うことができる教員の養成を目指す。教員採用試験対策（筆記等）を重視する中で、教員採用試験合格に向けて必要な知識を身に付けるとともに、学び方（個、ペアやグループ等に応じた対策方法）の習得と実践力の育成を図る。学校教育現場で求められる保健体育科教員に必要な基礎的な資質・能力の養成を目指して、具体的な場面や事例を取り上げ、ペアやグループによるディスカッションなどのアクティブ・ラーニングの学習法を取り入れ、学生の主体的な学びを推進する。	
	教職教養基礎Ⅱ	教員採用選考で実施される面接や模擬授業および集団討論の基礎的事項や対応方法について、採用する側の立場から説明し理解できるようにする。また、教職にかかわる自己分析を行い、その内容を自己PRシート等に活用する方法を理解する。教職教養（教育原理・教育心理）について実践的な練習問題を解くことで内容の再確認を行い、今後の学習計画を見直す。	
	法律科目演習Ⅰ	公務員採用試験で出題される法律科目について、憲法、民法、行政法の重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容についても学習を行う。また、刑法や労働法といった、その他の法律科目の内容についても、条文やの理解や重要な判例の学習を行う。特に刑法については理論やその学説、労働法については労働基準法など社会人として知っておきたい知識などについて学習を行う。	
	法律科目演習Ⅱ	「法律科目演習Ⅰ」に引き続き、公務員採用試験で出題される法律科目（憲法、行政法、民法、刑法、労働法など）に関して重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特に本授業科目は、これまでの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
	経済科目演習Ⅰ	公務員採用試験で出題される経済科目について、ミクロ経済学、マクロ経済学の重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容についても学習を行う。また、本授業科目では財政学や経済事情といった、その他の経済科目の内容についても講義を行う。財政学では財政理論や財政制度などについて、経済事情については国や地方自治体の一般会計などのデータについて学習を行う。	
	経済科目演習Ⅱ	「経済科目演習Ⅰ」に引き続き、公務員採用試験で出題される経済科目（ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学、経済事情など）に関して重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特に本授業科目は、これまでの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
	行政科目演習Ⅰ	公務員採用試験で出題される行政科目について、政治学、行政学、国際関係などの多岐にわたる科目の学習を行う。政治学では政治制度や政治思想、行政学では官僚制度や行政理論、国際関係では国際情勢や外交史などについて学習し、いずれも行政職として働くうえで基礎となる知識になる。これらの科目の学習を通じて、単に採用試験に合格するための知識としてだけでなく、行政職として活躍できる人材育成の土台作りを行う。	
	行政科目演習Ⅱ	「行政科目演習Ⅰ」に引き続き、公務員採用試験で出題される行政科目（政治学、行政学、国際関係、社会科学、社会事情など）に関して重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特に本授業科目は、これまでの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	

自由科目	会計学演習	公務員採用試験で出題される会計学について学習を行う。公務員採用試験において会計学は国税専門官の採用試験で出題される科目で、その出題数も多い。簿記に関する内容を多く含むので、受講前に日本商工会議所主催の簿記検定2級まで学習を終えていると内容を理解しやすい。本授業科目では公務員試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
	公務員試験直前対策Ⅰ（教養）	公務員採用試験で出題される教養科目の知能分野（文章理解、数的処理）、知識分野（社会科学、人文科学、自然科学）の問題演習を行う。本授業科目では基本事項、重要事項の確認を行いながら、より発展的な問題も出題し応用力、実戦力を育成する。また、模擬試験形式で問題演習を行い、速く正確に問題を解くことを講義内で訓練し得点力の向上を目指す。さらに試験情報の提供や、今後の学習の進め方など受験に向けたアドバイスも行う。	
	文章理解演習	既に学習した「文章理解」の講義に引き続き、公務員採用試験で出題される現代文や英文の内容把握を中心とした長文読解の学習を行う。講義内で重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容についても取り扱う。特に本授業科目は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
	人文科学演習	既に学習した「人文科学」の講義に引き続き、公務員採用試験で出題される日本史、世界史、地理、文学・芸術などの人文科学分野に関する重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特に本授業科目は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
	公務員試験直前対策Ⅱ（教養）	「公務員試験直前対策Ⅰ（教養）」に引き続き、公務員採用試験で出題される教養科目に関して模擬試験形式で問題演習を行う。特に本授業科目は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。また、試験情報の提供などの受験のアドバイスをを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。	
	社会科学演習	既に学習した「社会科学Ⅰ」「社会科学Ⅱ」の講義に引き続き、公務員採用試験で出題される法律、政治、経済などの社会科学分野に関する重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特に本授業科目は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
	自然科学演習	既に学習した「自然科学」の講義に引き続き、公務員採用試験で出題される数学、物理、化学、生物、地学などの自然科学分野に関する重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特に本授業科目は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
	公務員試験直前対策Ⅰ（SPI）	一部の公務員採用試験で導入されているSPI3やSCOAなどの従来の公務員採用試験とは異なる試験形式の対策を行う。これらの試験は従来の公務員採用試験よりは難易度が低いが、時事問題なども含まれるため、幅広い知識が必要となる。また、出題数が多いことから平易な問題を素早く解く訓練も必要となるため、それらを意識した講義を行う。さらに試験情報の提供や、今後の学習の進め方など受験に向けたアドバイスも行う。	
	公務員試験直前対策Ⅱ（SPI）	「公務員試験直前対策Ⅰ（SPI）」に引き続き、公務員採用試験で導入されているSPI3やSCOAなどの試験形式の対策を行う。特に本授業科目は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。また、試験情報の提供などの受験のアドバイスをを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。	

自由科目	専門科目記述式演習	国税専門官、裁判所職員などの採用試験で実施される記述試験の対策を行う。国税専門官では憲法、民法、経済学、会計学、社会学の5科目から選択、裁判所事務官では憲法が出題されるが、本授業科目では法律と経済学の対策を主に行う。自由記述式の試験であり、より深い知識が必要となるため、ある程度学習が進んでいる学生を対象とする。過去の出題例を基に重要論点について自分の言葉で論述できるように、実践的な演習を行う。	共同
	教職教養応用 I	教員採用選考の教職教養試験で出題される教育法規・教育史について学修する。教職教養試験で出題される主要事項の重要論点についての知識を整理し、理解を深める。教育委員会の人事担当や校長等で教員養成・採用・育成などの実務経験豊富な教員の指導を通して、実際の採用試験問題等にも触れながら教員採用選考合格に向けた実践力を身に付ける。	
	保健体育科 II	新しい時代に必要となる資質・能力を持った人材の育成を担うことができる教員の養成を目指す。教員採用試験対策（筆記等）を重視する中で、教員採用試験合格に向けて必要な知識を身に付けるとともに、学び方（個、ペアやグループ等に応じた対策方法）の習得と実践力の育成を図る。学校教育現場で求められる保健体育科教員に必要な基礎的な資質・能力の養成を目指して、具体的な場面や事例を取り上げ、ペアやグループによるディスカッションなどのアクティブ・ラーニングの学習法を取り入れ、学生の主体的な学びを推進する。	
	教職教養応用 II	教員採用選考で実施される面接や模擬授業および集団討論の基礎的事項や対応方法について、採用する側の立場から説明し理解できるようにする。また、教職にかかわる自己分析を行い、その内容を自己PRシート等に活用する方法を理解する。教職教養（教育法規・教育史）について実践的な練習問題を解くことで内容の再確認を行い、今後の学修計画を見直す。	
	公務員試験直前対策 III（教養）	既に学習した「公務員試験直前対策 I（教養）」「公務員試験直前対策 II（教養）」に引き続き、模擬試験を中心とした講義を行う。その中で時間配分や問題の取捨選択など、筆記試験合格に向けて、より実践的な練習を行う。また、知識を総整理するために解説講義も行い、重要事項や間違いやすい論点を再確認し、間違った問題の復習にも力を入れる。さらに、試験情報の提供など受験のアドバイスをを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。	
	公務員試験直前対策 III（SPI）	既に学習した「公務員試験直前対策 I（SPI）」「公務員試験直前対策 II（SPI）」に引き続き、問題演習を中心とした講義を行う。その中で早く正確に解くための訓練を行い、一次試験合格に向けて得点力を向上させる。また、知識を総整理するために解説講義も行い、重要事項や間違いやすい論点を再確認し、間違った問題の復習にも力を入れる。さらに、試験情報の提供など受験のアドバイスをを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。	
	公務員人物試験対策	公務員採用試験の人物試験対策を行う。本授業科目では特に、面接試験の準備を重視し、エントリーシートの作成や、個別面接、集団面接のロールプレイングを行い、面接試験に向けた対策を行う。また、論作文試験についても解説講義を行ったうえで論作文の添削を行う。さらに、一部の自治体では集団討論やグループワークが実施されるため、実際にグループに分かれて体験することで実践力を身に付け、人物試験合格を目指す。	
	教職総合演習	教員採用選考で出題傾向の高い内容を中心に教職教養の知識を整理し実践力を高める。教員採用選考の人物試験（個人面接、集団面接・討論、模擬授業）について、演習を通して実践力を高める。教育委員会の人事担当や校長等で教員養成・採用・育成などの実務経験豊富な教員の指導を通して、実際の採用試験問題等にも触れながら教員採用選考合格に向けた実践力を身に付ける。	

学校法人福原学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度

→ 令和6年度

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
九州共立大学								
経済学部								
経済・経営学科	350	-	1,400		<u>360</u>	-	<u>1,440</u>	定員変更(10)
地域創造学科	80	-	320		<u>50</u>	-	<u>200</u>	定員変更(△30)
スポーツ学部								
スポーツ学科	250	-	1,000		<u>220</u>	-	<u>880</u>	定員変更(△30)
こどもスポーツ教育学科					<u>50</u>	-	<u>200</u>	学科の設置(認可申請)
計	680	-	2,720		680	-	2,720	
九州共立大学大学院								
経済・経営学研究科								
経済・経営学専攻(M)	5	-	10		5	-	10	
スポーツ学研究科								
スポーツ学専攻(M)	5	-	10		5	-	10	
計	10	-	20		10	-	20	
九州女子大学								
家政学部								
生活デザイン学科	60	-	240		60	-	240	
栄養学科	90	-	360		90	-	360	
人間科学部								
児童・幼児教育学科	100	-	400		100	-	400	
心理・文化学科	90	-	360		90	-	360	
計	340	-	1,360		340	-	1,360	
九州女子大学大学院								
人間科学研究科								大学院新設
人間科学専攻(M)					<u>5</u>	-	<u>10</u>	
計					<u>5</u>	-	<u>10</u>	
九州女子短期大学								
子ども健康学科	150	-	300		150	-	300	
計	150	-	300		150	-	300	